

# 年 報

# 目 次

地域研究交流センター長挨拶「地域という〈ことば〉」	1
I. 交流・支援部門	2
1. 交流・支援部門事業の概要	2
2. 交流・支援部門事業の実績と課題について	2
【交流・支援部門の個別事業】	3
1. 講師・委員等の応嘱	3
2. 学外からの相談などへの対応	4
3. 高校大学連携講座の実施	4
4. 教員の地域貢献活動への支援	6
5. 学生による地域貢献活動への支援	6
6. 大学周辺自治会との連携	7
7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力	9
8. 「池田地区健康まつり」への参加・協力	10
9. 看護・福祉専門職支援	12
10. その他	12
II. 情報発信部門	13
1. 情報発信部門事業の概要	13
2. 情報発信部門事業の実績と課題について	13
【情報発信部門の個別事業】	14
1. 年報の発行	14
2. ニュースレター「tobira」の発行	14
3. ウェブサイトでの情報発信	15
III. 生涯学習部門	16
1. 生涯学習部門事業の概要	16
2. 生涯学習部門事業の実績と課題について	16
【生涯学習部門の個別事業】	18
1. 地域研究交流センター主催講座	18
(1) 観光講座	18
(2) 秋季総合講座	19
2. 県民コミュニティーカレッジ	20
(1) 地域ベース講座（4回）「よりよく生きるために 死ぬために」	20
(2) 広域ベース講座（2回）	22
3. 地域連携講座	23
(1) 日本語・日本文化講座	23
(2) 幼児教育センター月齢別講座	23
(3) 子育て支援リーダー・ステップアップ講座	25

(4) 東日本大震災被災地応援企画穴山町サンマまつり 2015	30
(5) 「やまなしの女性史を学ぶ」講座	31
4. 学部共催講座	33
(1) 健康講座「3世代 あなたもわたしもいきいき健康づくり」(看護学部)	33
(2) 第8回子育て支援フォーラム「音楽のおへやへ ようこそ」(人間福祉学部 人間形成学科)	34
(3) ソーシャルワークセミナー2015 (人間福祉学部)	35
(4) 地域研究交流センター・国際政策学部共催講演会 (国際政策学部)	36
5. 授業開放講座事業	37
IV. 地域研究部門	38
1. 地域研究部門事業の概要	38
2. 地域研究部門事業の実績と課題	38
【地域研究部門の個別事業】	39
1. 地域研究事業 (共同研究・プロジェクト研究)	39
(1) 双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築	39
(2) 俳句 (haiku) で山梨と世界を結ぶ～国際文芸プロジェクト～	40
(3) 山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究Ⅱ	41
(4) 中学生とその親を対象とした「いのちの学習会」の効果	42
(5) 〈学びの支援〉に焦点をあてた日本語支援活動—山梨県内の活動の新たな 発展に向けて—	43
(6) 山梨県の地域語の商業的、社会的有効活用に関する調査研究	44
(7) A県内の病院における大雪災害時の取り組みと医療安全上の課題	46
2. 研究報告会	47
V. 戦略開発部門	48
1. 戦略開発部門事業の概要	48
2. 山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案 (2015年4月21日)	48
VI. 事務局	51
1. 運営委員会記録	51
2. 組織図・委員名簿	52
3. 地域研究交流センター委員一覧	53
資料	54
1. 年間の時系列記録	54
2. フライヤー等	59

## 地域という〈ことば〉

学術研究において、厳格に術語の定義を行なうことは研究者相互の共通理解に資する必須の環境と言えます。本学の地域研究交流センターも「地域」という〈ことば〉を冠しますが、果たして共通理解があるのでしょうか。「地域安全」「地域医療」「地域開発」「地域再生」「地域ポータル」「地域連携」枚挙に暇がありません。今さらながら、一度は確認しておきたいと考えます。

〈ことば〉の意味は各言語共同体の成員が頭の中で認識し、相互に共通理解をしながら支えています。ただし、視認できる情報ではなく、心的な概念と言えるでしょう。端的に目で見たい時は、辞書に頼るのが早道。さっそく、漢語「地域」を検索して見ましょう。なんと、中型の漢和辞典（漢字源など）に地域という見出しは基本的にありません。さすが、大漢和辞典には「地」の熟語見出しとして掲載されています。

【地域】土地のさかひ。又、さかひの内。

区域。疆域。〔周禮、地官、大司徒〕以天下土地之圖、周知九州之地域廣輪之數、云々、…〔梁武帝、登北顧樓詩〕歷覽窮天步、曬矚盡地域。

〔大漢和辞典第一巻〕

もともとは「土地の境目」を意味した漢語であり、現在のような概念はなかったと認められます。さらに、国語辞典を参照し

ましよう。いずれの国語辞典も「地域」を見出しに掲げています。その代表として、『大辞林』を示します。

ちいき【地域】

- ①区切られたある範囲の土地。
- ②政治・経済・文化の上で、一定の特徴をもった空間の領域。  
全体社会の一部を構成する。
- ③国際関係において一定の独立した地位を持つ存在。台湾など。

〔大辞林第三版〕

漢語本来の意味は①、近代以降に確立するのが②と③になります。地域研究交流センターでは②を対象とすること、異論はないでしょう。そこで、本学が「地域」と向き合う方向を列記して見ます。抽象的ながら、大筋で賛同いただけたらと考えています。

■地域再生の核となる大学

■生涯学習の拠点となる大学

■社会の知的基盤として

役割を果たす大学

さて、共通理解を確認すれば、我らの「地域」と同舟できるでしょう。みな人にはよって立つ場所があります。懐かしくもあり、愛しくもあり、時には疎ましくも。

—いざ、漕ぎ出でん。

2016年03月10日  
地域研究交流センター長  
二戸 麻砂彦

# 交流・支援部門

## 1. 交流・支援部門事業の概要

### (1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

### (2) 学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

### (3) 高校大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している城西高校との高大連携講座を継続実施した。

### (4) 教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援メニューを企画・実施した。

### (5) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、3 件のプロジェクトを認定・支援したほか、「学生活動支援室」の活動として、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

### (6) 大学周辺自治会との連携

2010 年度から開始し、5 年目になる大学周辺自治会との連携活動は今年度は休止した。来年度から再開する予定である。

### (7) 池田地区総合防災訓練への参加・協力

地域自治会との情報交換を契機に依頼された事業として、池田地区総合防災において、看護学部・人間福祉学部の教員および学生が、救急救命・応急処置等についての講習・指導を行った。

### (8) 「池田地区健康まつり」への参加・協力

池田地区連合会からの依頼を受け、看護学部の教員と学生が 5 年連続で「池田地区健康まつり」に参加・協力した。

### (9) 看護・福祉専門職支援

学習会や講演会等の企画を検討することを年度計画に挙げたが、企画立案には至らなかった。

## 2. 交流・支援部門事業の実績と課題について

大学周辺自治会と、情報交換会、地域自治会への参加・協力などを継続している。本学の、研究・教育の実績を活かして、地域や専門機関などと、足元の地域から地道に日常的に交流・支援を広げていく方向性をさらに学内全体で共有・展開していく。

## 【交流・支援部門の個別事業】

### 1. 講師・委員等の応嘱

本学教員は学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成27年度の応嘱状況を下の表に示す。

これによれば、全学でのべ400件の応嘱があり、内訳は、講義・講演が216件、委員等が164件、その他が20件であった。学部別には、国際政策学部が28件、人間福祉学部が162件、看護学部が200件、職員等が10件であった。

なお、本報告における数値は平成28年2月2日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が存在すると考えられる。

表1 平成27年度の講師・委員等応嘱状況

学部名	依頼内容名			総計
	講義・講演	委員等	その他	
国際政策	7	17	4	28
人間福祉	105	47	10	162
看護	103	97	0	200
職員等	1	3	6	10
総計	216	164	20	400

表2 平成27年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育園		1	2		3
小中学校		2	8		10
高等学校	3	1	3		7
専門学校		1	3		4
大学・短期大学	1		6		7
県関係機関	1	19	21		41
市区町村	1	24	17		42
各種団体		36	25	1	62
医療機関・福祉機関等		14	16		30
省庁等	1				1
その他		7	2		9
総計	7	105	103	1	216

表3 平成27年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	3	1			4
大学・短期大学					
県関係機関	6	19	20	3	48
市区町村	6	8	12		26
各種団体	2	11	59		72
医療機関・福祉機関等			5		5
省庁等		1			1
その他	1	8	1		10
総計	18	48	97	3	166

表4 平成27年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校					
県関係機関	1	2		1	4
市区町村		1			1
各種団体	1	4		5	10
医療機関・福祉機関等					
その他	2	3			5
総計	4	10		6	20

(文責：青柳 暁子)

## 2. 学外からの相談などへの対応

地域研究交流センターは、学外と大学をむすぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供施設提供などに対応している。本年度も各種活動への協力名義提供、施設提供を行った。

(文責：青柳 暁子)

## 3. 高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として城西高校からの依頼を受け平成18年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を、本年度も継続して実施した。看護学部8名、人間福祉学部6名、計14名の教員の協力があつた。教員名とテーマは以下の通りである。

表 5 27 年度 城西高校高大連携授業

講義	月日	担当先生	講義テーマ
オリエンテーション	4月14日	城西	
	4月21日	城西	
	4月28日		
	5月12日	城西	
	5月19日		
看護学部	5月26日	清水 恵子	ケアになるコミュニケーション技術とは
	6月2日		
	6月16日	城西	
	6月23日		
	6月30日	城西	
看護学部	7月7日	高岸 弘美	慢性腎臓病の治療と看護について
	7月14日	城西	
	7月21日	城西	
人間福祉学部	8月25日	村木洋子	音楽の効き目ってなんだろう♪
	9月1日		
人間福祉学部	9月8日	畑本裕介	年金制度の実態
人間福祉学部	9月15日	下村幸仁	“現代福祉”の基礎を学ぶ
人間福祉学部	10月6日	青柳暁子	睡眠とその支援
人間福祉学部	10月13日	西澤哲	『子ども虐待』ってなに？
看護学部	10月20日	小山 尚美	高齢者の言動を科学的に理解しよう
人間福祉学部	10月27日	古屋祥子	子どもと美術
看護学部	11月10日	泉宗 美恵	訪問看護について
	11月24日		
	12月1日		
看護学部	12月8日	上條 優子	リーダーシップ・フォロワーシップを考える
看護学部	12月15日	小田切 陽一	
	12月22日		
看護学部	1月12日	萩原 結花	周産期にある母子への看護
看護学部	1月19日	大久保ひろ美	看護の基本 ―日常生活に目を向けよう―
まとめ	1月26日	城西	

(文責：青柳 暁子)

#### 4. 教員の地域貢献活動への支援

##### (1) 教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的に行う地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

##### (a) センター主催の「地域交流・貢献活動」としての採択・実施

本学教員が主体的に企画・実施する県内特定地域での交流事業を対象とする。内容に応じて、旅費、消耗品などを支援する。

##### (b) センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報など、可能な範囲で支援する。

##### (c) センター「後援」等の名義の使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意志表明をするにふさわしいものを対象とする。

##### (d) 学生ボランティアの募集協力

「学生活動支援室」を平成 19 年度に開設し学生による地域貢献活動の推進を行っている。この「支援室」を通じ、本学での学生ボランティア参加者募集等に協力することができる。

##### (e) その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的なご要望などがあれば相談を受け付ける。

(文責 青柳暁子)

#### 5. 学生による地域貢献活動への支援

##### (1) 「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度」を平成 20 年 6 月に定めた。これは本学学生又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイトにも広報するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要綱に基づき、平成 27 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

##### (a) 教職員からの推薦

実施要綱では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 27 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、3 件のプロジェクトが推薦された。

**表6 平成27年度 学生優秀プロジェクト 認定一覧**

	プロジェクト名	実施主体
1	ぬくもりのある居場所づくりプロジェクト	山梨県立大学 ホームレス支援サークル
2	保護観察少年への学習支援・児童養護施設での学習支援	山梨 BBS
3	お産カフェタイムプロジェクト	山梨県立大学 ヘルスプロモーションクラブ

**(b) 選考委員会による選考**

センター長が組織した選考委員会において選考を行った。選考委員会のメンバーは、文珠理事、瀧田理事、二戸センター長、波木井教授、古屋准教授、村木洋子准教授、小林講師、青柳講師、事務局から菊嶋リーダーの9名であった。

平成28年1月5日に選考委員会が開かれ、協議の結果3件のプロジェクトの認定が決定された。

**(c) 認定**

認定式を平成28年1月28日 12:30～12:50に飯田キャンパスA館2階中会議室にて開催した。

**(2) 「学生活動支援室」の活動**

平成19年度より設置している「学生活動支援室」により学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信を行った。

(文責：青柳暁子)

**6. 大学周辺自治会との連携**

**(1) 地域自治会との懇談会**

平成22年度から大学周辺自治会との連携事業として懇談会を実施していたが、今年度は実施できなかった。来年度への課題としたい。

**(2) 鶴巻台西自治会内における「鶴巻台西いこいの会」と学生の交流**

山梨県立大がサークルMOTTAINAIは、平成24年6月より、県立大学飯田キャンパス近隣(グランド南側)の鶴巻台西自治会の「鶴巻台西いこいの会」で、高齢者との交流事業を続けている。甲府市には高齢者が集まって交流する地域型サロンが109か所あり、「鶴巻台西いこいの会」もその一つである。平成27年は下記の活動を行った。

手巻きずしパーティ「まきまきパーティリターンズ」

活動日時：7月18日（土）11：00～14：00

活動場所：県立大学カフェテリア 一階

参加者：学生12名、地域の方3名

活動内容：学生がそれぞれ持ち寄った具材で手巻き寿司を作りながら交流を行った。

食後にはクイズなどのレクで親睦を深めた。

<地域の方の感想から>

- ・何時もながら楽しい時間がすぎてしまいました。またお逢いできる日を待っています。
- ・準備が大変でしたね。良く企画計画されてます。ありがとう。
- ・突然の訪問をしてしまってすみません。楽しく過ごす事ができました。ありがとうございます。
- ・今後、運動も入れた活動が出来ればいいと思います。

<学生の感想から>

- ・前回よりも地域の方と交流を持てたのが良かったです。
- ・具材も多くておいしく食べられたし、地域の方とたくさんお話ができて楽しかったです
- ・地域の方もおっしゃられていたのですが、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。もう少し長い時間やってもいいかも。
- ・地域の方だけでなく、先輩方とも交流ができて楽しかった。
- ・寿司の材料（魚や野菜）の豆知識を地域の方から学んだ。
- ・みんなでレクを楽しむことが出来て良かった。

<学生の総括>

前回の反省点に「学生から地域の方への積極的な関わりがあまり見られなかった」ということが挙がり、学生内で交流の意味を考え直し、次回からは自発的、主体的に話しかけることが出来るようになっていこうと話し合った。今回の感想に「交流を持てて良かった」「地域の方とたくさんお話が出来てよかった」「もう少し長い時間やりたい」など、前回出なかったものがあつたことはとても嬉しかった。

学生と地域の方で人数に大きく差が出てしまっている現状もあり、一度参加頂いた方がまた参加したいと思えるような交流を続けていくことが今後の課題になってくると感じた。



(文責：青柳暁子)

## 7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力 (別添)

本活動は今年度で 5 回目となり、本学のセンター事業においても、地域交流・支援の大きな位置づけとなる活動である。そのため、協力・指導団体として、池田地区連合自治会主催の企画会議から参加し、救護訓練を担当することが確認された。

実施にあたっては、救護訓練の資料として、地域住民には、「おぼえておこう災害時の応急処置」、子ども用には「きみにできる傷やけがの手当て」のパンフレットを作成し、持参した。

救護訓練の活動内容は以下のとおりである。

- 1) 日時：平成 27 年 8 月 30 日 (日) 8:30～11:30
- 2) 場所：池田小学校、甲府西高校、甲府城西高校、西公民館
- 3) 協力者：教員 11 名

流石ゆり子、村松照美、渡邊裕子、渡辺かづみ、小山尚美、青柳暁子、小尾栄子、  
清水智嘉、茅野久美、生原妙子、小林美雪

学生 14 名

4 年生 桑原由美、渡辺早紀

3年生 大村優果、佐々木美緒、菊池肖、千野有彩、前田海菜、岡澤朋美  
手塚あかね、瀧口水理、佐藤史都

2年生 久保美樹・相川広光・山口隼生

#### 4) 内容

- ・ 災害時救助所で活用できる救護の知識と技術
- ・ 小学生に向けた災害時の応急手当（小学生を対象として、大人と別に実施）

総合防災訓練は、688名の地域住民が参加して行われた。教員と学生は、4か所の救護場所に分かれ、用意したパンフレットを住民に配布し、それに基づいて応急処置や救護の知識と技術について指導し、住民と共に実施した。身近にあるタオルやストッキング、段ボール等を活用した止血や創部の固定、レジ袋を代用した三角布の作成等に住民の関心が高かった。また、小学生を対象とした応急手当の実際には、子どもだけでなく親も積極的に参加し親子共に防災への知識・技術を深めることができた。

住民の方からの感想として、「昨年やったことでも忘れていることも多い。毎年この機会に練習することで、いざという時に協力しながらできると思う。」「毎年、県立大学の全面的な協力のおかげで、とても価値のある防災訓練になっていて感謝している。」「レジ袋やストッキングがこんなに使えるのに驚いた。防災袋に入れておこうと思う」等の好評価を頂くことができた。

また、参加した看護学部の学生が住民に応急処置の技術を積極的に指導し、明るい雰囲気の中で交流を深めていた。



(文責 小林 美雪)

## 8. 「池田地区健康祭り」への参加・協力

2016年3月6日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、教員と看護学部の学生が参加した。池田地区連合会からの依頼を受け、6年連続での参加・協力となった。昨年度好評であった血圧・体組成・Functional Reach Test（姿勢反射機能と柔軟性の評価）・血管年齢・足指力・敏捷性と、今年度は新たにタッチパネルによる認知機能テストを加え、教員指導の元で学生が測定した。また、健康相談コーナーを充実し、甲府市の地区担当保健師および西地域包括支援センターの看護師とも連携して、測定した結果を渡して参加した地域住民の健康に関する相談に応じたり、自作のパンフレ

ットを用いて転倒予防体操や生活習慣病の予防について指導を行ったりして、地域住民と学生および教員が交流を深めた。また「あなたの歩き方は大丈夫?」コーナーも新設し、大きな鏡の前で歩き方をチェックしながら正しい歩き方を指導したり、万歩計を利用した健康管理について指導したりして、地域住民から大好評を得ていた。

今年も地域の方々は学生や教員の参加を楽しみに待っていてくださり、測定結果を見ながら真剣に相談していた。学生にとっては、地域で健康に暮らしている方のニーズを知り直接お話しできる貴重な機会であり、学びの多い時間となった。また、大学で学生の講義に協力して下さった経験者も多いため、学生も住民も教員も再会できたことを喜び、大学と地域の繋がりがさらに深まった印象であった。本事業への参加は“健康”を考えながら、学生・教員と地域の方々が直接交流を深めることができる貴重な機会である。看護学部が身近な存在として、地域の中に受け入れられていることに感謝し、今後もさらに地域との交流・連携を深めていきたいと考える。参加教員と学生は、以下の21名である。

教員（7名）：流石ゆり子・村松照美・渡邊輝美・小山尚美・生原妙子・茅野久美・  
渡邊裕子（看護学部）

学生（14名）：秋山来恵・飯田真唯・小俣和歌菜・小倉千明・中山佳歩・前田海菜（3年生）、伊井彩美・飯塚綾美・井上咲子・宇佐美奈見・久保美樹・剣持理恵・定月美彩代・田中かなえ・古屋香菜・若月麻未（2年生）、奥田悠祐・小松理紗子・渋谷志織・知見桃花・奈良のぞみ・野田翼（1年生）



（文責 渡邊裕子）

## 9. 看護・福祉専門職支援

山梨県立大学地域研究交流センターの地域研究部門における「特別研究事業」の中で、平成 20 年度に看護・福祉専門職支援コーディネーター部門が、看護学部と人間福祉学部との協働による看護職と介護職の連携に関する調査研究を実施した（調査研究の取りまとめは「看護職と介護職の連携に関する研究調査報告書」として発行）。この調査研究では、看護職と介護職との連携の実態や課題が把握された。

交流・支援部門は、看護・福祉専門職支援コーディネーターの役割を持つことになっているが、看護・福祉専門職支援は実施できていない現状がある。

今年度は過去の報告書からの情報把握や、交流・支援部門のメンバー内での意見交換を行い、看護福祉専門職支援の方向性を確認した。しかし、看護・福祉専門職支援に関する企画立案には至らなかったため、継続審議していくこととなった。

(文責：青柳暁子)

## 10. その他

### 「第 18 回山梨チャリティーラン 2015」へのボランティア参加

今年も、障害児のサマーキャンプの資金集めのために 2015 年 6 月 13 日に開催された、「第 18 回山梨チャリティーラン 2015」で、本学学生 35 名と教員 2 名がボランティアとして参加した。

このチャリティーマラソンは、山梨YMCA・甲府ワイズメンズクラブ・山梨日日新聞・山梨放送などが実施している、伝統ある県内最大のチャリティーマラソンである。山梨YMCA からの要請で、同大会への資金援助は可能だが、どうしてもランナーが集まらない企業のゼッケンを付け、代走者として参加した。

本学から派遣した学生数は、1 団体から派遣したボランティア数では、県内最大となり、主催団体からは今年も高い評価を受けた。また 1 チームは、ユニークなコスチュームで参加したため、同大会のコスチューム賞を受賞した。

(文責：吉田均)

# 情報発信部門

---

## 1. 部門事業の概要

### (1) 年報の発行

『2014年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2015年5月20日付けで発行した。

### (2) 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」を、本学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外の関係機関・団体等に配布した。2015年度は下記の通り発行した。

①第25号：2015年5月29日発行

②第26号：2015年9月4日発行

③第27号：2016年2月5日発行

### (3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトにおいて、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物、活動記録等について情報発信した。

## 2. 部門事業の実績と課題について

ウェブサイト、ニューズレター、年報の媒体を用いて、地域研究交流センターの事業活動について学内外に情報発信を行った。こうした情報発信は、事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2015年度も、前年度と同様の体制のもとで、継続的に情報発信活動を行った。ニューズレターと年報については、おおむね予定通りのスケジュールで発行され、安定的に情報発信することができている。ニューズレターでは、昨年度から設けられた「私の研究室」コーナーも定着し、本学教員の研究成果を分かりやすい形で地域に発信している。今後とも、さらに内容の充実を図っていく必要がある。ウェブサイトについては、さらに的確で効果的な情報発信のために、センター全体のビジョンに基づきつつ、大学全体の広報活動との関係もふまえて、戦略的な情報発信を進めていく必要がある。

## 【情報発信部門の個別事業】

### 1. 年報の発行

『2014年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2015年5月20日付けで発行した。この『年報』は、地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センター説明資料や自己点検評価等の資料として活用されている。2009年度までは年度末に年報を発行してきたが、2010年度からは次年度の5月に発行予定時期を変更した。『2014年度年報』も、予定通り2015年5月に発行することができた。

(文責：藤谷秀)

### 2. ニュースレター「tobira」の発行

地域研究交流センターのニュースレター「tobira」は、本学と地域を結ぶ機関紙であり、本学の教員や学生による地域貢献活動、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を広く県内外に情報発信する役割を持っている。これまでは、ほぼ以下の紙面構成で発行してきた。

- \* 「私の研究室」：本学教員の研究活動・成果の紹介
- \* 「地域とつながる」：本学の地域連携・地域貢献事業の紹介
- \* 「私たちの一歩!」：学生による地域貢献活動の紹介
- \* 「講座・イベントのお知らせ」：講座・イベント等の告知

2010年度からは(第11号以降)、「tobira」という誌名のもと、デザインと内容を一新し、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで内容の充実を図った。2011年度からは(第13号以降)、年3回発行し(2010年度までは年2回)、よりきめ細かい情報発信を行っている。本年度も、ほぼ定期通り3回(25～27号)発行することができた。

発行部数は各回4000部で、このうち2627部を関係先553箇所へ発送した。内訳は、県関係(46箇所)、市町村(28箇所)、文化施設(55箇所)、県内大学(10箇所)、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育所等、226箇所)、企業(14箇所)、県内非営利活動法人(52箇所)、県内高校(51箇所)、その他(71箇所)である。

各号の概要は以下の通りである。

#### (1) ニュースレター「tobira」第25号(2015年5月29日発行)

- \* 「私の研究室」小尾栄子助教(看護学部)：「私の歩んできた道、これから歩む道～子どもたちと健康・保健室・地球とひとの暮らし」と題して、東ティモールにおける子どもたちの健康課題調査活動のご経験もふまえ、健やかに命をつないでいく社会のあり方をめぐる問題提起をしていただいた。
- \* 「地域とつながる」：高野美千代准教授(国際コミュニケーション学科)から、小学校で英語の授業を受け持つ先生方を対象としたセミナー、地域の特色を活かした英語教材の作成、外国語授業をサポートするボランティア学生の派遣など、「小学校英語指導者育成プロジェクト」の取り組みを紹介していただいた。
- \* 「私たちの一歩!」：“炊き出し活動”や、“温かい食事を届ける”おにぎり活動”を中心に、山梨県内のホームレスや生活困窮者への支援を行なっている「ホームレス支援サークル」の活動を紹介した。
- \* 「講座・イベントのお知らせ」：7月以降に開催予定の講座(「観光講座」、「日本語・日本文化講座」)の告知を行い、二戸センター長挨拶を掲載した。

## (2) ニュースレター「tobira」第26号(2015年9月4日発行)

- \* 「私の研究室」 古屋祥子准教授(人間形成学科) : 「眼にはみえないものを感じる瞬間～美術を通して広がる世界」と題して、「空気を描く・空気をを感じる」をコンセプトとした木彫・「かたちと素材」にこだわったアートメダル制作やレリーフ制作などの彫刻制作、それをふまえた学生への美術教育実践を紹介していただいた。
- \* 「地域とつながる」: 澁谷彰久教授(総合政策学科)から、弁護士などの専門職後見人や親族後見人でもない第三の後見人として注目され始めている”市民後見人”について、「市民後見人養成講座」など、その育成の取り組みを紹介していただいた。
- \* 「私たちの一歩!」: 在宅療養中の方のお宅を訪問して通院のお手伝い・話し相手・ご家族のサポートなどを行なうとともに、”認知症サポーター活動”にも取り組んでいる「在宅看護研究会」の活動を紹介した。
- \* 「講座・イベントのお知らせ」: 9月以降に開催予定の講座・イベント(「後期授業開放講座」、「手でみる彫刻展・古屋祥子展」、「県民コミュニティーカレッジ」)の告知を行った。

## (3) ニュースレター「tobira」第27号(2016年2月5日発行)

- \* 「私の研究室」 西村明子准教授(看護学部) : 「糖尿病患者の気持ちに寄り添う～糖尿病とともに歩み糖尿病患者の生活を支援する」と題して、ご自身の闘病経験もふまえ、食後の高血糖を予防する食事療法、患者さんの自由度を高めるための支援など、患者さんの気持ちに寄り添った生活支援のあり方を提示していただいた。
- \* 「地域とつながる」: 村木洋子准教授(人間形成学科)から、バイオリンとピアノの演奏、学生の手作り楽器などを使った子どもたちと一緒にの演奏など、音楽の力で子育てを支援する「子育て支援フォーラム」の取り組みを紹介していただいた。
- \* 「私たちの一歩!」: 山梨の伝統的な絹織物「甲斐絹(かいき)」の魅力をより多くの人に伝えることを目的に、学生と教員が立ち上げた合同会社「飯田甲斐絹堂」。その商品開発・販路開拓などの活動を紹介した。
- \* 「講座・イベントのお知らせ」: 3月に開催予定の「センター研究報告会」、平成28年度前期授業開放講座の告知を行った。

(文責: 藤谷秀)

## 3. ウェブサイトでの情報発信

本学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物(年報・報告書・ニュースレター等)、活動記録等、各種の情報発信を行っている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信となっている。また、センターが中心となって行った取り組み(講座・イベント・学生優秀地域プロジェクト等)を、そのつど「活動記録」としてまとめ、情報発信している。

(文責: 藤谷秀)

# 生涯学習部門

## 1. 部門事業の概要

平成 27 年度は、以下の事業を実施した。

### (1) 地域研究交流センター主催事業

地域の方々を対象に大学の教育・研究成果発表、及び県民の知的関心に応えるための講演会を企画・開催した。

- ①観光講座
- ②秋季総合講座

### (2) 県民コミュニティーカレッジ事業

「大学コンソーシアムやまなし」との提携で、地域ベース講座として大学の研究成果を分かりやすく伝える講演会の企画運営をし、広域ベース講座として、フィールドワークを含む講座を実施した。

- ①地域ベース講座
- ②広域ベース講座

### (3) 地域連携講座事業

地方自治体の委託を受けて、本学教員が各種講座を企画・実施した。

- ①日本語・日本文化講座
- ②幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部・看護学部）
- ③子育て支援リーダー・ステップアップ講座
- ④穴山町サンマ祭 2015
- ⑤「やまなしの女性史を学ぶ」講座

### (4) 学部共催講座事業

各学部学科の特性をいかした講演会・講座・イベント等を担当教員が企画・開催した。

- ①健康講座（看護学部）
- ②子育て支援フォーラム（人間福祉学部人間形成学科）
- ③ソーシャルワークセミナー（人間福祉学部福祉コミュニティ学科）
- ④講演会（国際政策学部）

### (5) 授業開放講座事業

大学の正規の授業を受講でき、地域や社会に開かれた大学としての取り組みである。前期に 18 科目を開講、後期に 30 科目を開講した

## 2. 部門事業の実績と課題について

本年度は 5 区分 14 種類の事業が企画実施された。複数回シリーズで実施される企画が多く、固定参加者も年々増加傾向にある。参加アンケートによると概ね良い評価を得ることができた。これも、生涯学習部門委員をはじめ、各学部の担当教員の尽力と事務

局の広報の工夫などの賜物である。

事業の回数や種類が多く、一部の教員に負担が偏る傾向や、開催日が連続する点については、今後の改善課題として取り組みたい。

## 【生涯学習部門の個別事業】

### 1. 地域研究交流センター主催事業

#### (1) 観光講座

1. テーマ：「山梨の温故知新～自然と人間の関係から探る～」
2. 趣旨：日本列島の中央部に位置する山梨県は、首都東京の近くにありながら、富士山や南アルプスなど豊かな自然に恵まれ、この自然と共に暮らしてきた先祖からの生活・文化などにも、独特なものが今に伝えられています。山梨の自然と人の関わりにつき、歴史・科学的にその変遷を探究する視点を基本とし、さらに山梨の魅力再発見の手助けになる情報を、この講演会で学ぶ機会として企画しました。
3. 対象：一般県民
4. 講師：林 英美（気象キャスター）・宇野 忠（山梨県富士山科学研究所）・篠原 武（ふじさんミュージアム）・仁田晃司（環境省南アルプス保護官事務所）・輿水達司（山梨県立大学特任教授）・新津 健（山梨県考古学協会）・中山誠二（山梨県教育委員会）・柴田 尚（山梨県森林総合研究所）・植月 学（山梨県立博物館）・長池卓男（山梨県森林総合研究所）
5. 日時と参加者数：  
第一回：平成 27 年 7 月 5 日(午後 1 時～午後 4 時半) [参加者 74 名(当日受付 20 名)]  
第二回：平成 27 年 8 月 9 日(午後 1 時～午後 4 時半) [参加者 59 名(当日受付 15 名)]  
第三回：平成 27 年 8 月 30 日(午後 1 時～午後 4 時半) [参加者 90 名(当日受付 26 名)]  
第四回：平成 27 年 9 月 6 日(午後 1 時～午後 4 時半) [参加者 56 名(当日受付 13 名)]  
第五回：平成 27 年 10 月 4 日(午後 1 時～午後 4 時半) [参加者 65 名(当日受付 13 名)]
6. 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂
7. 実施状況：5 回の講演会には、延べ 344 名の参加を数え、平均で 69 名になりました。これらの参加状況をみると、多くは一般県民で、しかも、特に動員を促すことなく多くの参加者のあった背景には、今までに実施した「富士山の世界遺産講座」、「南アルプス講座」などと同様に、本年度の場合にも、科学的に価値の高い自然・文化が我々の身近にあることが、強い関心を抱かせたのかも知れません。
8. 参加者の感想： \* 県民であっても知らないことが多すぎることをとてももったいなく思いました。\* 知らないことを知る楽しみがとても心地よいです。\* もっと PR をして聴講生を増やさないともったいない。\* 身近な問題のデータに基づいた講義は大変興味深く学ばせていただきました。\* 久しぶりに楽しく、眠気もなく聞けました。\* 座学と現地説明が合体した講座があれば良いと思います。など。

最後に、昨年同様に今回の講演内容も報告書として本年度中に完成予定で作業を進め、同時に地域研究交流センターホームページには、この PDF 版をアップする計画です。今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ、山梨県立大学に足を運んで頂いた経緯から、今後においてこの企画が県内観光推進の面からも何某かの新しい貢献になれば、と願って実施状況の報告とします。

(文責 輿水達司)

## (2) 秋季総合講座

①テーマ：「よりよく学び生きるために」

②日 時：平成 27 年 9 月 5 日 (土) 13:30～16:00

③場 所：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

④趣 旨：人はいくつになっても、学び続けることで成長し、学び始めるのに遅すぎることはありません。この機会に山梨県立大学を訪れてみませんか？

⑤内容：

### 【1】「なぜ学ぶ、学ぶよろこび」

講師 瀧田 武彦 山梨県立大学理事

これまで学校にあって、生徒に多くのことを教えていただきました。勉強は難しいし大変だ、でも分かるとおもしろい。何のために学ぶのだろう、周りの人はあなた自身のためだと言うが本当だろうか。全国学力学習状況調査では「平均正答率の全国平均との比較」が話題になる、順位が重要なのかな。高校生、保護者と一緒に考えてみたいのです。



### 【2】「福祉でまちを考える～助け合いってどんなこと？～」

講師 高木 寛之 人間福祉学部福祉コミュニティ学科講師



社会福祉実践は、共に生きていくことができる地域社会の実現を目指しています。そこでは、誰もが助け支え合える関係を築いていくことが重要です。しかし、助け支え合うといってもどのように、どこまで、何をすればいいのでしょうか。簡単な遊びを通して、自分たちにできる助け支え合いについて考えてみましょう。(この講義は、遊びを中心に行っていますのでどなたでも参加できます)

### 【3】「Introduction to Comparative Cultural Studies」

講師 大村 梓 国際政策学部国際コミュニケーション学科講師

日本人とは？日本文化とは？という問いを比較文化の観点から考えていきませんか。海外での日本文化に対する評価を、文学、映画、新聞報道を通して考察し、私達が考える「日本」との違いを一緒に見ていきましょう。英語での講義を体験してみたい、海外で日本がどう受け入れられているのかを知りたい、という方の受講をお待ちしております。(※この講義では、大学レベルの英語での講義を少し簡単にして、主に高校生向けのレベルで行います。)



⑥参加者：60名、そのうち高校生が37名で、質疑応答も活気があった。

以下はアンケートより抜粋。

- ・学校からの勧めで参加しました。学び、考えることの大切さを改めて認識できました。また参加します。ありがとうございました。
- ・英語での講座が不安でしたが、理解することができてうれしかったです。“なぜ学ぶのか”という講座はなるほど、確かに！と思えて楽しかったです。
- ・様々な年代の方との交流、おもしろかったです。
- ・子供とともに参加させていただきました。3講座それぞれテーマに沿ってお話いただき学びの場になりました。ありがとうございました。
- ・高校生と一緒に講座、楽しいです。過日勸学院で県立大の学生さんと一緒に講座がありとても有意義でした。若い人々と共同で作業をしたり、一緒に学べる機会がないだけに貴重な体験です。最初、2時間30分は長いと思いましたが、あっという間に過ぎ、短すぎる感さえありました。福祉の講座は、これまでの講義にはない楽しい講座でした。簡単な道具を使っての競争、老人クラブなどの集まりの時使えそうです。何十年ぶりかの英語、理解できない部分がほとんどでした。途中で帰ってしまう方がいたのは残念でした。

(文責：村木洋子)

## 2. 県民コミュニティーカレッジ事業

### (1) 地域ベース講座

1、テーマ：「よりよく生きるために 死ぬために」

自分の生活、自分の生き方を振り返ってみて、  
これからの人生の価値を見つめ直してみませんか。

2. 講座概要：

第1回 「よく生きること」と「死を思うこと」～「生」と「死」を哲学する

山梨県立大学人間福祉学部 藤谷 秀 教授

第2回 脳も身体も元気が一番～ロコモ&認知症予防で健康寿命を延ばそう～

山梨県厚生農業協同組合連合会 山梨県厚生連健康管理センター  
健康運動指導士 三森 真里 氏

第3回 エンド オブ ライフ (end of life) を自分らしく生きるために

山梨県立大学看護学部 流石 ゆり子 教授

第4回 「お墓の中まで持っていけますか？

－成年後見と信託から学ぶ老後のための財産管理術

山梨県立大学国際政策学部 澁谷 彰久 教授

2、日時：第1回 平成27年9月26日(土) 14時～15時半(参加者94名)

第2回 平成27年10月17日(土) 14時～15時半(参加者58名)

第3回 平成27年10月24日(土) 14時～15時半(参加者60名)

第4回 平成27年11月14日(土) 14時～15時半(参加者45名)

3、場所：山梨県立大学 飯田キャンパス サテライト教室(第1,2,4回)講堂(第3回)

4、主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアムやまなし

5、受講者アンケートから

・哲学そのものが少しわかったような気がします。

・今後、不条理な死のテーマでも講座を開催していただきたいです。また、単発の講座の方が参加しやすくてよいです。

・自分の生きてきた中で、共感できる考え方が

多くありました。

今まで「死」を勉強する機会がなかったのでよかったです。(以上第1回)

・ストレッチや体操もあり、とても楽しく過ごせました。家でもやってみるつもりです。ありがとうございました。

・高齢者の健康寿命を上げていくための手だてが市町村の福祉を中心に次第に高まっているように思われる。「脳」も「身体」も元気でいられることこそ高齢者にとっては一番必要なこと。今日は本当によかったと思います。身体を使っただの実習は大変よかったです。(以上第2回)

・終活を考える上で参考になりました。ありがとうございました。

・誰にでもやってくる終末期の問題、しかしあまり言葉にしたくないことを改めて考える良い機会でした。

・介護職として働いています。私のような若者がすぐに高齢の方の立場を理解するのは大変ですが、これで少し理解できたと思います。ありがとうございました。(以上第3回)

・ありがとうございました。信託のことがわかり、これからの後見人の問題がわかりとてもよかったです。

・今回のような講座がよいと思います。何故かという、社会の中で必要とするケースの法的な事務処理と理論の説明が必要だからです。

・今回の内容で、もう少し深い内容の講義を希望したいです。(以上第4回)

(文責：村木洋子)



## (2) 広域ベース講座

1. テーマ：「富士山ぐるり一周の旅」(大学コンソーシアムやまなしー広域ベース講座)

2. 実施日と参加者：

■講 義：「富士山・富士五湖・富士山地下水の見どころ」

日 時：平成27年10月11日(日) 13時～15時40分

会 場：山梨県立大学 飯田キャンパス B館講堂

■観察会：バスツアー(山中湖、富士山新五合目、宝永噴火口、白糸の滝、朝霧高原、富岳風穴など)

日 時：平成27年10月18日(日)

集合出発：甲府駅発便(大型バス1台) 8時20分出発→17:45帰着

大月駅発便(大型バス1台) 8時40分出発→17:40帰着

参加者は、10月11日が85名(座学のみ参加者を含む)、10月18日が67名

3. 趣旨：「大学コンソーシアムやまなし」では、その発足以来、地域ベース、広域ベースとして一般向けに、大学の研究成果の周知活動を広く行ってきたが、その殆どが座学によるものであった。これらのうち、内容によっては、座学のみならず野外における学習機会も併せた企画も期待される中で、昨年度は山梨県立大学が主体となって、「南アルプスの大地形成一千万年を辿る旅」と題する、初の野外の観察企画を実施した。これに続き、今年度は「富士山ぐるり一周の旅」を以下のような案内文で、昨年同様に県立大学が主体で実施した。

「富士山はその形成過程などにつき科学の側面から観ると、日本列島の多くの火山と比べ、随分と特異な性格を備えています。この特異性にも着目しながら、富士山・富士五湖・富士山地下水などの自然に触れる、富士山一周の旅に出かけてみませんか。」

4. 対象：一般県民

5. 実施内容(概要)：昨年度は、バス二台にて、甲府駅出発・終点で南アルプス地域一帯の観察内容であった。今年度は、富士山方面の野外観察に先立って、半日の座学によるスライド説明会を、10月11日に実施した。その上で、10月18日に甲府発着便と大月駅発着便の2つのコースで野外の現場に出かける企画とした。実際には、最初の見学地点の山中湖畔で2台のバスが合流し、その後は最後の富岳風穴観察まで一緒に行動をとった。

6. 参加者の感想：\*今日は写真、地図等でご説明いただき良く解りました。水の勉強もしてきましたが、おっしゃる通りで良く解りました。\*今後も自然を学びたいです。  
\*大変良い企画だと思う。\*甲府駅発のコースを、今後は増やしてくださるとありがたいです。\*今まで知らなかった自然や地形、地質について学び、多くの知識を得ることが出来ました。\*今後共学びを楽しみにしていきたい。

最後に、座学に加え野外に出かけて自然に触れつつ、その成り立ちと変遷を紹介することを通して、郷土の魅力の再発見に、専門的立場から今後も努めていきたい。

(文責 興水達司)

### 3. 地域連携講座

#### (1) 日本語・日本文化講座

- ①目的：甲府市内在住外国人のためのレベル別日本語教室
- ②日時：平成27年6月～平成27年12月までの毎週日曜（13～15時）
- ③場所：山梨県立大学飯田キャンパス 研修室、A606 他
- ④内容：会話1、会話2、会話3、文字クラス、文化講座「川柳」「年賀状の書き方」
- ⑤主催：山梨県立大学、甲府市
- ⑥実施状況

参加者（延べ）：284名

会話1...44名 会話2...63名 会話3...114名 文字クラス...36名  
日本文化講座「俳句・川柳」「お歳暮」...27名

参加者国籍：11か国 <中国、台湾、アメリカ、ベトナム、タイ、フィリピン、韓国、ペルー、ブラジル、インド、ボリビア>

（文責：萩原孝恵）

#### (2) 幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部・看護学部）

甲府市からの依頼を受けて9年目となり、平成27年度は計33回の講座を実施した。看護学部は「3ヵ月～8ヵ月未満児クラス」9回と「8ヵ月～1歳3ヵ月未満児クラス」6回、人間福祉学部は「1歳3ヵ月～2歳未満児クラス」9回と「2歳児クラス」9回を受け持った。

看護学部は「育児の気がかり」をテーマとして、対象年齢の保護者向けに、小児看護学領域の教員2名で担当した。人間福祉学部の講座は、教員が講師を務める講座と、人間形成学科の学生も参加する交流企画の2つのタイプで実施した。

実施日程、担当者、内容は以下のとおりである。

##### ● 3ヵ月～8ヵ月未満児（木曜日 10：30～11：30）

中央部幼児教育センター	7月2日（担当講師：井上みゆき教授）
	10月14日（担当講師：井上みゆき教授）
	1月21日（担当講師：井上みゆき教授）
北部幼児教育センター	6月25日（担当講師：井上みゆき教授）
	10月29日（担当講師：宗村弥生准教授）
	1月28日（担当講師：宗村弥生准教授）
中道つどいの広場	6月18日（担当講師：井上みゆき教授）
	11月5日（担当講師：井上みゆき教授）
	1月28日（担当講師：井上みゆき教授）

● 8ヶ月～1歳3ヵ月未満児 (火曜日 10:30～11:30)

中央部幼児教育センター 6月23日 (担当講師:井上みゆき教授)

10月20日 (担当講師:井上みゆき教授)

1月26日 (担当講師:井上みゆき教授)

北部幼児教育センター 6月30日 (担当講師:宗村弥生准教授)

10月27日 (担当講師:宗村弥生准教授)

1月19日 (担当講師:宗村弥生准教授)

● 1歳3ヵ月～2歳未満児 (金曜日 10:30～11:30)

中央部幼児教育センター

6月19日《親子で楽しく身体表現あそび》 高野牧子教授

10月23日《不思議の国の子どもたち》 多田幸子講師

1月22日《親子で手遊び》 樋口しずか非常勤講師

北部幼児教育センター

6月26日《ようこそ宇宙船地球号へ:国際人への第一歩》 山田千明教授

10月23日《音楽とコミュニケーション》 村木洋子准教授

1月22日《親子で楽しく身体表現あそび》 高野牧子教授

中道つどいの広場

6月26日《親子で楽しく身体表現あそび》 高野牧子教授

10月30日《音楽とコミュニケーション》 村木洋子准教授

1月29日《自己尊重のコミュニケーション—子どもも親も自分を大切に—》  
池田政子名誉教授

● 2歳児 (水曜日 10:30～11:30)

中央部幼児教育センター

6月17日《親子で手遊び》 樋口しずか非常勤講師

6月24日《脳と心を元気に育てる方法》 坂本玲子教授

10月21日《一緒にクッキング!家庭でできる》 鳥居美佳子准教授

11月4日《一緒に遊ぼう (ダンボールで作ったいろいろ道具)》  
学生・引率(池田充裕教授)

1月20日《劇遊び発表会》 学生・引率(高野牧子教授・村木洋子准教授)

1月27日《手を使った造形遊び》 古屋祥子准教授

北部幼児教育センター

7月1日《子どもの「得意」をさがしてみよう》 田中謙講師

11月4日《一緒に遊ぼう (ダンボールで作ったいろいろ道具)》  
学生・引率(古屋祥子准教授・田中謙講師)

1月20日《劇遊び発表会》 学生・引率(古屋祥子准教授)



(文責：村木洋子)

### (3) 平成 27 年度「子育て支援リーダー・ステップアップ講座」

①趣旨：平成 22 年度～24 年度に実施した「子育て支援リーダー養成講座」の上級編として、家庭教育・子育てにおける喫緊の課題について講義と実技演習を主体とした学びにより、子育て支援者の資質向上を図り、支援活動を積極的に推進できる人材を養成する。

②主催：山梨県教育委員会社会教育課

実施機関：山梨県立大学（人間福祉学部人間形成学科）

共催：山梨県立大学地域研究交流センター

連携：教育事務所（中北、峡東、富士・東部、峡南）

③会場：本学サテライト教室、講堂ほか

④運営：高野牧子教授・池田政子特任教授の企画、コーディネートにより実施。社会教育課及び教育事務所担当者は外部講師との連絡、広報、会場準備、毎回の受講者評価集計などの事務およびグループ研究へのサポートを行った。

⑤プログラム・日程（別表参照）

毎回、講義、ワークショップ、グループ討論など多様な方法により学習を進めた。ステップアップのために「グループ研究」を導入し、地域を基準に編成された6グループが自主的にテーマを設定して、課題を定め学習・研究を行い、その成果を発表した。「親のコミュニケーションスキルの向上 ～コーチングを行い、親のスキルアップを目指す！」「親への支援」「乳幼児期における子育て支援・コミュニケーションに注目して」「みんなで子育て いいとこ探し」「親子で楽しむ手作りおもちゃ」「『ふえふき子育て応援ガイド』の作成・配布」のテーマで、資料収集、調査・分析・考察、それに基づく実践、成果物の作成とその活用などを行い、最終回に概要の発表を行った。この内容を含め、各回の実施状況、評価等について、県社会教育課の下記ページに公開。

<https://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/kosodatestepup/bosyu.html>

<別表> SR：サテライト教室 WS：ワークショップ GW：グループ自主研究

回	日時・会場	内 容	講師（所属）
1	6月12日 (金) SR	開講式・オリエンテーション テーマ「自分の課題を見つめる」 講義「子育て支援の現在と私たちの課題」、GW①	池田政子（県立大）
2	6月26日 (金) SR	テーマ「家庭教育支援の技術をみがく」 WS「親子で楽しく身体表現遊び」 GW②	高野牧子（県立大）
3	7月10日 (金) SR	テーマ「児童虐待とDVについて学ぶ」 講演「児童虐待とDV ～DV支援の立場から」 講演「気づいたら 支えて 知らせて 見守って」 GW③	富士池昌代（山梨県立 女性相談所相談員） 角田広美（中央児童相 談所児童虐待対策幹）
4	7月30日 (木) SR	テーマ「発達支援障がいについて学ぶ」 講演とWS「発達障がいの子どもと親への支援」 GW④	星山麻木（明星大学 教授）
5	8月2日 (日) B120 講堂	テーマ「家族の今」 人間関係づくりワークショップ 「関係づくりを支えるものを考える」 受講者交流会 子育て支援者フォーラム ①シンポジウム「家族の今と私たちの実践」 萩元知恵子（ファミリーサポートセンターしょうわ） 難波訓美（支援が必要な子供たちの家族会ジョリークラブ代表） 齊藤加代子（フードバンク山梨事務局長） 私の子育て支援紹介(子育て支援者養成講座同窓会)	多田幸子（県立大）  進行 池田政子（県立大）
6	9月1日 (火) SR	テーマ「お互いの経験から学び合う」 講演「ピアカウンセリングを体験してみよう！」 GW⑤	大塚ゆかり（県立大）
7	9月15日 (火) SR	テーマ「子どもとの関わり方を学ぶ」 講演「支え合い育ち合いの子育て支援」 GW⑥	大豆生田啓友（玉川 大学教授）
8	9月25日 (金) SR	テーマ「ワクワク子育て親育ち」 WS「ワクワク子育て親育ち教材について学ぶ」 GW⑦	池田政子（県立大）
9	10月9日 (金)SR	グループ自主研究⑧	高野牧子（県立大）

10	10月23日 (金) 講堂	「グループ自主研究発表会」 閉講式	池田政子 (県立大) 高野牧子 (県立大)
----	---------------------	----------------------	--------------------------

\* 毎回、進行とアドバイス等を高野牧子・池田政子及び各教育事務所職員、社会教育課担当者で行った。

⑥修了者: 基準により35名に修了証を授与した。修了者の職種、居住地域等の内訳については、次の通り。

職種	人数
ファミリーサポートセンター	3
子育て支援センター	8
保育所・幼稚園	6
放課後子供教室・児童館等	6
子育て支援団体等	6
その他(介護士 ヘルパー 看護師 事務職 主婦 等)	6
合計	35

市町村名	人数	市町村名	人数
甲府市	12	笛吹市	7
南アルプス市	2	山梨市	1
甲斐市	1	甲州市	3
中央市	2	富士吉田市	2
昭和町	1	大月市	2
韮崎市	1	富士河口湖町	1
合計		35	

\* 修了者35名のうち男性は2名

## ⑦参加者からの感想など

### (1) 講座全体の評価 (%)

	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった
講座内容	100	0	0	0
現場での役立ち度	57	43	0	0
班別自主研修	53	37	10	0
講座運営	90	7	3	0

### (2) 受講生のコメント (抜粋)

#### A. 講座の内容

幅広い講師陣で、内容の深い講義を聴くことができた。／受講者が参加する形式を取り入れる内容が多く、意欲的に参加できることに繋がったと思う。／講座全体のテーマが、大人も子供も自己肯定感がもてたら、生きていくこと自体が楽しくなる、良い社会が築けるということだったように感じました。まさに、私が深めたいと思っていた内容でした。／子育て支援に関わっていたものの、しっかりとした勉強もなく、利用者の皆さんと関わっていたが、研修させていただき、少しですが自信をもって関わったり、接したりできる気持ちになれた。

## B. 役立ったこと

「親子で楽しく身体表現あそび」は、実際すぐ支援センターで行い、楽しむことができました。／「私にも何かができる！！」と、自信が付きました。小さなことからコツコツ頑張ります。／職場に帰り、職員に伝え勉強しました。実践していきたいです。／支援する側の気持ち「自分のことが好きではない支援者に支援されたいか？」この言葉が一番心に響きました。このことを忘れず今後もやっていきたいと思えます。

## C. グループ研究

発表するプレッシャーは大きくありましたが、それに向けてグループ内がまとまり、この自主研修学習は有意義なことだと思います。ただ聴くだけの講座ではなく、質問あり、発表あり、リーダーとなる心構えが少しずつできてきたと思います。今回参加した人達はとても前向きの方が多かったのでいい刺激になりました。／明るい雰囲気、話しやすいグループだったので楽しく進めていくことができました。／研究発表を通して班内のコミュニケーションがとれました。少しの意見のいき違いもありましたが協力し合いできて良かったです。最終的にまとめて冊子の作成までできればと思います。／研究発表を班内でまとめている時に、それぞれの思いがすれ違ってしまいうこともあったが、さらなる話し合いにより、結果的にはまとまり、大変良い研究発表として班の成果が出せたのでとても良かったと思う。

## D. 運営について

時間、内容、構成、どれもとっても良かったです。講座だけでないところの部分も勉強になりました。／これからますます学びを深めたい、もっともっと色々知りたい、関わりたいと思う意欲とパワーを沢山いただきました。本当に貴重な機会をくださり深く感謝致します。／5か月間楽しく参加できました。発表時のアドバイスをいただき勉強になりました。／講座を受けたかった方もいたので、ぜひ次回も開催をよろしくお願い致します。



## ⑧社会教育課担当者のまとめ

アンケートは、どの項目についても「良かった」という回答が多かった。中でも「講座内容」は全員が、「講座運営」でも良かったという回答が多く、講座開催の意義があったとともに、満足して終了できたと考えることができた。

単に講師の講義を聴くというのではなく、自分の考えや疑問をもって講義を聴くことによって、さらに自分のものとして身につけることができたと思われる。また新しく学んだ言葉を積極的に使ったり、学んだことを実践しようとする意欲が感じられた。毎回講義の最後の振り返り用紙には、多くの方が「だからこうしていきたい・・・」という、意欲や向上心が伺える文書を書いており、学んだことが次に繋がっていくことがわかった。

班別自主研究は、最初は、知らない者同士、何を研究するか意見もそれぞれであったために、取りかかるまでに時間を要した。しかし、自分の勤務状況、悩みや意見を出し合うことにより、次第に課題が見えてきた様子であった。班の研究を発表まで、まとめるためには、大変なご苦勞をされたと思われるが、自分の班の取り組みについて、自信をもって、また満足感を感じながら発表されている様子うかがえた。班の活動では、皆、自分の意思や考えをきちんともっているために、班の意見としてまとめる時には、うまくいくことばかりではなかった様子であったが、発表時は、和やかな雰囲気発表できて良かった。班の仲間と、親しみをもって接しており、グループでの研修は、地域でのネットワークづくりに、つながっていけると思われる。どの班も、研究のまとめ方、発表の仕方について工夫されている様子うかがえた。自ら熱心に研究したこともあり、他の班の発表をしっかりと聞いており、自分の意見を述べたり、質問していることが伺えた。



(文責：池田政子・高野牧子)

#### (4) 東日本大震災被災地応援企画穴山町サンマまつり 2015

- (1) テーマ：山梨から考える震災5年目の東北
- (2) 日時：2015年10月24日10:00～15:00
- (3) 場所：穴山町ふれあいホールおよび旧穴山小学校体育館
- (4) 参加人数：15名（国際政策学部総合政策学科2、3年生）
- (5) 来場者数：約400名

(6) 内容：韮崎市穴山地区の住民の皆さんが中心となって行っている東日本大震災被災地応援企画において、地域の皆さんと協力して被災地の復興の現状を学ぶとともに、山梨からできる復興支援について地域の視点で考える機会となった。まつりでは1000尾を超えるサンマが宮城県気仙沼市から運ばれ、来場者はサンマを食べながら震災を語るほか、生サンマや現地の特産品を購入することで現地の復興を支援した。

本学からは、国際政策学部の2年生9名、3年生6名、教員2名が参加し、先の東日本大震災によって甚大な被害を受けた被災地の被害の現状と復興への課題を学び、被災地が直面している課題を、日本の地方圏の地域経済の特徴を踏まえて理解するとともに、復興のためにどのような支援が可能か、また災害と隣り合わせで生きる日本社会が安心して生活できる場所であるにはどのような要件が求められるかを考えた。

本企画は、国際政策学部の基礎演習IVおよび総合政策課題演習Ibの授業と連動している。基礎演習受講学生は、授業のなかで山梨県内の伝統産業やユニークな活動等を取材し、動画として編集し情報発信する学習の一環として取り組んだ。当日は、主催者（穴山町サンマ祭り2015実行委員会）の清水俊弘さんのご指導のもと、宮城県気仙沼市の震災後の状況報告会（NPO 法人日本国際ボランティアセンター）に参加するとともに、会場整理やサンマ焼き、配膳など、祭りを裏方として支え、被災地の現状を学び、山梨から被災地を支援することの意義を感じた。また、課題演習受講生は前年参加した経験から引き続いて活動を支援した。

学生は、イベントで取材した映像資料を元に、地域住民の活動の様子をまとめて英語で紹介するYoutube動画を作成し、震災5年後の日本における地域住民の地道な活動を広く世界に発信した。



会場の様子



学生たちも「焼き」を手伝った

(文責：二宮浩輔)

## (5) 平成 27 年度「やまなしの女性史を学ぶ」講座

①趣旨: 山梨の女性の歴史を掘り起こし、記録することの意義や方法について、地域女性史の視点から学び、また県民の関心を高めるための公開研究会として実施。本年度で 10 年目となった。

②主催: 山梨県立男女共同参画推進センターびゅあ総合

共催: 山梨県立大学地域研究交流センター・やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト(平成 27 年度センター「教員の地域貢献活動」支援事業の一つ)

後援: 笛吹市教育委員会、山梨県詩人会

③日時 第 1 回: 2015 年 11 月 15 日(日) 13 時 30 分～16 時

第 2 回: 2015 年 11 月 22 日(日) 13 時 30 分～16 時

④会場: 山梨県立女共同参画推進センターびゅあ総合 小研修室

### ⑤講師、実施状況

第 1 回「ふるさと一宮をうたい続けた詩人 ——母、堀内幸枝を語る」

講師: 谷口典子(東日本国際大学名誉教授)

コーディネーター: 吉原五鈴子

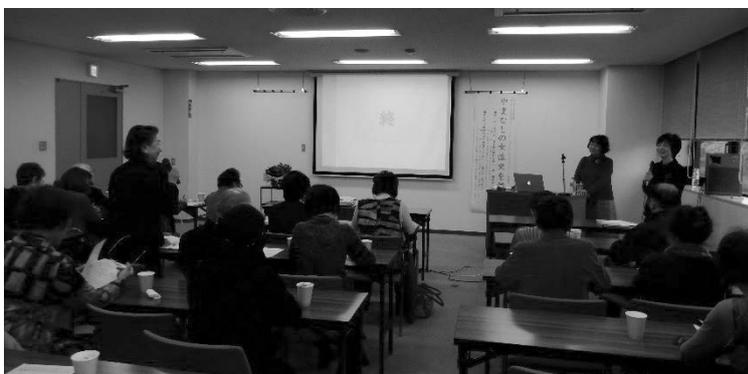
(元県立男女共同参画推進センター館長・プロジェクトメンバー)



第 2 回「山梨県女子教育のさきがけ ——内藤ますとその周辺」

講師: 山中淑子(プロジェクトメンバー)

コーディネーター: 池田政子(山梨県立大学名誉教授・プロジェクト代表)



⑥参加者 第1回:28名 第2回:26名

⑦参加者からの感想(抜粋)など

**満足度:**第1, 2回とも、アンケート回答者の全員が「満足」または「まあ満足」と回答。

**第1回の感想:**知らないことが多く、大変勉強になりました。／亡き母と同じ年に生まれ、同じ山梨高女で学び、婚家を追い出され父とともに苦勞した母の思い、同世代の女性の心の叫びを聞くことができました。／私も一宮町に住んでおりまして、この講座を学ばせていただいて、知り得ないこともわかりとてもよかったです。

**第2回の感想:**素晴らしい研究の発表をありがとうございました。／とてもわかりやすく、新知識を得られてよかったです。／大変興味深く拝聴しました。深く多岐にわたり「内藤ます」について調査・研究されており、もっと広く多くの人々の知るところになれば更に良いと思いました。／とてもよかったです。学ぶことの多い機会でした。以前歴史は苦手だったのですが、歴史の面白さを知りました。／よく研究されていて、素晴らしかった。NHKの連ドラにしてほしい。

(文責：池田政子)

## 4. 学部共催講座事業

### (1) 健康講座（看護学部）

#### 1. テーマ：「3世代 あなたもわたしもいきいき健康づくり

～ みんなで楽しく身体を動かそう～ 」

##### 【テーマ設定理由】

身体を動かすことは、虚血性心疾患、高血圧、糖尿病、肥満、骨粗鬆症、結腸がんなどの罹患率や死亡率の低下、また、メンタルヘルスや生活の質の改善に効果をもたらすことが認められている。厚生労働省は2013年より健康づくり運動である健康日本21《第2次》において、2023年までの身体活動・運動分野の目標として、「歩数の増加」「運動習慣者の割合の増加」といった個人の目標と、「運動しやすいまちづくり・環境整備に取り組む自治体の増加」のような地域・自治体の目標を定めた。

しかし、身体を動かすという実際の行動に結びつかない方が多く、特に山梨県においては交通手段に車を使用することが頻繁であるため、多くの世代において身体を動かすことが乏しいといった課題がある。

そのため、今回、地域においてシニア世代と子どもたち及びその保護者を含めた3世代が、身体を動かすことを通して、楽しみながら交流を図り、身体を動かすことや健康について考える機会とすることを目指したい。

#### 2. 実施日：平成27年11月29日（日）10：00～11：25

#### 3. 場 所：公立大学法人 山梨県立大学看護学部 池田キャンパス体育館

#### 4. 講 師：K2 ライフサポート代表取締役 木村 清 他

#### 5. 実施状況

##### 1)参加者：68名（大人43名、子ども25名）

\*甲府市池田自治会の多大なご協力によって参加者を募ることができた。

##### 2)内容

講師紹介後、まずゲームをとおして参加者の交流が深められた。続いてタオルを使ったストレッチ、認知を鍛える手遊び等、多彩な世代別及び3世代交流による身体活動が行われた。アンケート結果をみると（68名中回収数30名）、殆どの回答者が大満足・満足と回答していた。会場では終始笑顔や笑い声が絶えず、3世代相互の交流の場となっていた。参加者からの感想・意見には、「いつも動かさない部分を動かさせてよかった」等の運動効果について、また「各地域に持ち帰って実施したい」等の多くの声が寄せられた。



(文責：茂手木明美 村松照美)

## (2) 第8回子育て支援フォーラム「音楽のおへやへ ようこそ」 (人間福祉学部 人間形成学科)

①会の名称：第8回子育て支援フォーラム「音楽のおへやへようこそ」

②会の主体：主催（人間福祉学部人間形成学科）・共催（地域研究交流センター）

③開催日時：2015年12月5日（土）14：00～15：30

④開催場所：飯田キャンパス 講堂

⑤参加人数：総計190名

（内訳）おとな65名、こども68名、学生38名、教員15名、職員4名

### ⑥内容概要

- ・「おんがくのおへやへようこそ」と題して、親子参加型の演奏会を開催した。
- ・演奏内容はヴァイオリンのアテフ・ハリム氏と教員村木洋子のピアノで、モーツァルトなどの名曲11曲が演奏された。
- ・絵本『ぼくにげちゃうよ』では朗読に森明美氏を迎え、村木洋子作・編曲のピアノ曲8曲の演奏とともに、絵本の世界を音楽とともに楽しんだ。
- ・人間形成学科3年生には、はじまりの手遊びや、最後のクリスマスソングメドレー5曲にも参加してもらい、会場設営・飾りつけ・照明・受付業務なども担当してもらった。

### ⑦学外参加者からのご意見・ご要望

- ・ピアノにさわったり、もぐって聴いたり、普段のコンサートではできないことが体験できた。
- ・マットが敷いてあり、子どもがのびのびと自由に歩いて良い
- ・このような音楽会を年に何回か実施してほしい
- ・小さい子どものためにお昼寝の時間をさけて午前中にしてほしい
- ・一流の演奏家と身近にふれることができることを、もっと多くの人に知らせたい
- ・学生さんが温かく迎えてくれて、手あそびが楽しかった。
- ・子どもと大人がともに楽しめ本格的な音楽を聴く貴重な機会だった
- ・こんなに素晴らしい企画なのに知られていないので、広報の仕方を工夫してほしい。



（文責：村木洋子）

### (3) ソーシャルワークセミナー2015

#### (人間福祉学部福祉コミュニティ学科)

- (1) テーマ：「思い」を形に、「社会資源の開発」と「地域に“在る”場所」をつくるには
- (2) 講師：NPO法人 みつばのくろーばー 代表 堀内 直也 氏 (本学卒業生)
- (3) 日時：平成28年1月20日(水) 18:00~19:30
- (4) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス A館サテライト教室
- (5) 参加人数：49名 (内訳) 学生39名、教員5名、職員1名、学外者4名
- (6) 内容概要：

本学卒業生である堀内氏をお招きし、「社会資源の開発」をテーマに実際に社会資源を開発するという事は、どのようなことなのか。どのような社会問題に対して、どのような思いが堀内氏を突き動かしたか。なぜNPO法人を立ち上げたのか、どのようにNPO法人を立ち上げたのか、その思いを形にする方法とは。また、立ち上げただけでなく、地域住民に地域の中に“在る”と感じてもらえる場所にするためには地域とどのようなかかわりを持てばよいのか。甲府市内で試行錯誤を繰り返しながら活躍する専門職の生の声を対談形式で伺った。

- (7) 参加者アンケート (抜粋)：

- ・みつばのくろーばー、興味を持ちました。学校から近いこともあるので、今度お話を伺いに行ってみたいと思います。
- ・高齢者・子ども・障害者・地域の人・・・いろいろな関係性が集まれる、つながることができる場所があるのはいいなと感じた。私も足を運んでみたい。
- ・実際に行っていることをとても分かりやすい言葉で話してくれたので聞きやすかった。地域でのつながりは大切っていうけれど、本当につながるの？という疑問があったが、実際につながれるということが分かった。
- ・県大出身の先輩が活躍している様子を知ることができ、私自身も目指すことに向けて頑張っていこうというエネルギーがわいてきました！



(文責：高木寛之)

#### (4) 地域研究交流センター・国際政策学部共催講演会(国際政策学部)

##### 文芸翻訳のはなしー耕し、育てる喜びと苦しみー

日時：2015年12月4日(土) 16:30~18:00

講師：堀江里美(翻訳家)

会場：飯田キャンパス A館5階サテライト教室

司会：大村梓(国際政策学部講師)

参加人数：18名

講演要旨：第一線で活躍している現役の翻訳家を招いて、実践的な翻訳の話についてうかがった。翻訳という行為は言語だけを扱っているわけではなく、その背景となる文化もそこには大きく影響してくる。小説の登場人物の文化的背景、時代性から、話し言葉の選択を行い、またそれが日本人読者にとって受け入れやすいものであるのかも検討しなくてはならない。英語の知識だけではなく、文化的・歴史的背景への知識など、翻訳をする上で必要とされる能力は、実は語学力に限られたものではないのだ。



(文責：大村梓)

## 5. 授業開放講座事業

平成 27 年度前期は以下の 18 科目が開放され、延べ 6 名が受講した。

社会と歴史(全学共通科目)、日本経済論、環境社会学、貿易論、アジアの歴史Ⅰ、地域研究論、中国の社会経済、地域プロジェクト論、社会言語学、東アジアと日本、地方自治体の国際協力、国際コミュニケーション基礎演習Ⅲ(吉田均 2 年生ゼミ)、課題演習Ⅰa(吉田均 3 年生ゼミ)、国際コミュニケーション演習(卒業研究:吉田均 4 年生ゼミ)、公的扶助論、精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ、精神保健福祉相談援助の基盤(専門)、性のヘルスプロモーション

平成 27 年度後期は、以下の 30 科目が開放され、延べ 7 名が受講した。

人間と思想、ジェンダー論、発達と教育の心理、共生社会論、国際理解演習(韓国)、国際経済論Ⅰ(アジア)、韓国の社会と文化、日本語の構造(音韻・文字)、文化政策論、マスメディア論Ⅱ、メディア・リテラシー、日中関係の歴史、英文法Ⅰ、英語の構造(統語)、国際協力論、国際開発論、課題演習Ⅰb、国際コミュニケーション演習(卒業研究:吉田均ゼミ)、言語学概論、障がい児保育、対象理解Ⅱ(障害Ⅰ)、社会保障論Ⅱ、障害者福祉論Ⅱ、精神疾患とその治療Ⅰ、被服環境学、多文化教育論(中・高)、母性看護学Ⅰ、ケアのジェンダー学、看護心理学、心理学

(文責 村木洋子)

# 地域研究部門

## 1. 地域研究部門の事業概要

地域研究交流センター（以下センター）では、地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究、地域文化の発掘と活用、地域文化の創造につながる研究、地域に貢献する特色ある教育に関する研究について、3学部・研究科の教員から参加を募り、研究事業を実施している。研究事業には、センターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部部の教員が参加するプロジェクト研究と、それ以外で地域貢献に資する共同研究がある。

本部門はこの事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定、研究進捗管理、報告書作成、研究報告会開催、評価などに関わった。

## 2. 部門事業の実績と課題について

今年度の早い段階で、前年度に行われたセンター地域研究事業に係る評価を、初めて実施した。評価は評価委員会（学長、理事（教育担当、研究担当）、センター長、センター地域研究部門長の学内委員5名）により行われた。評価結果は、当該研究の代表者が引き続きセンター地域研究事業に応募した場合の研究の選考の参考とした。

今年度のセンター地域研究事業については、学内公募を行い、7件の応募があり、選考委員会による審査を経て、以下の7件が採択され、実施された。

- (1) 双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築
- (2) 俳句（haiku）で山梨と世界を結ぶ～国際文芸プロジェクト～
- (3) 山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究Ⅱ
- (4) 中学生とその親を対象とした「いのちの学習会」の効果
- (5) 〈学びの支援〉に焦点をあてた日本語支援活動—山梨県内の活動の新たな発展に向けて—
- (6) 山梨県の地域語の商業的、社会的有効活用に関する調査研究
- (7) A県内の病院における大雪災害時の取り組みと医療安全上の課題

センター地域研究事業に係る評価委員会の外部委員の具体的人選について検討を行い、1名を加えることになった。この体制で今年度を実施したセンター地域研究事業に係る評価を行う予定である。

センター地域研究事業の成果を地域社会に還元し、地域を支える行政や産業界、団体、NPO、教育機関、医療機関、福祉施設、住民の方々に、より一層ご活用いただくため、研究成果の効果的な発信をこれまで以上に心掛けていきたい。

（文責：波木井 昇）

## 【地域研究部門の個別事業】

### 1. 地域研究事業（共同研究・プロジェクト研究）

#### （1）双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築

##### 1) 研究目的

「地域に開かれ、地域と向き合う大学」を標榜する山梨県立大学と、地域の人材輩出の拠点として90余年の歴史を有する山梨県立身延高等学校の間で、地域振興をテーマとした授業を通して、地域が抱える諸課題の解決を図ることができる人材を協働して育成することを旨とする。その活動を通じて、大学と高校での連携方法や授業の実施方法について双方でノウハウと標準的なモデルを獲得し、将来的にそのモデルを他高校との連携においても活用する。

##### 2) 研究内容と成果

フィールドワークを含め全10回、7月に開催された町長との意見交換会に先立つ指導や総合的な学習の時間での発表におけるシンポジウムまで含めると12回の講義を実施した。昨年度と比較して、育成すべき生徒像について共通の理解を持って高校と大学の教員双方で働きかけを行うという高大連携授業の目的は、生徒に提示する地域振興に関するアプローチ方法、大学側教員と高校側教員による打ち合わせ、授業の実施方法等、昨年度より多くの点で次回以降にも参考となるモデル例やノウハウを獲得することができ、達成することができたと考えている。

また、2016年2月16日13:30～15:20、身延町の町長室にて、望月仁司身延町長ほか、望月幹也副町長、佐野文昭政策室長、柿島利巳観光課長など、同町幹部に対して政策提言を実施した。本事業の受講生徒である県立身延高等学校生徒有志SKY 2015より、『県立身延高等学校の生徒有志による身延町への政策提言―「心のユニバーサルデザイン」の実現に向けて―』が直接町長に手渡された。

その後、生徒によるパワーポイントを使用した概要説明（25分間）があり、身延町幹部と生徒による提案内容などに対する質疑応答が、予定時間を大幅に延長して行われた（1時間）。

身延町幹部の同提言書に対する評価は極めて高く、できる限り積極的に町政に取り入れたいとの回答を得るとともに、当日参加した身延高等学校の生徒8名と随員教員1名が、その場で身延町観光大使に任命される等、同町からも今後の活動について大きな期待が寄せられることとなった。

##### 3) 研究メンバー

国際政策学部教授

二戸 麻砂彦（研究代表者）

国際政策学部教授

吉田 均

国際政策学部教授

張 兵

国際政策学部教授

二宮 浩輔

山梨県立身延高等学校教頭	深沢 守
山梨県立身延高等学校教諭	近藤 学
山梨県立身延高等学校教諭	橋本 昌樹
山梨県立身延高等学校教諭	五味 哲矢
山梨県教育庁新しい学校づくり推進室主幹	金塚 正貴
山梨県教育庁新しい学校づくり推進室主査	矢ノ下 健司

(文責：矢ノ下 健司)

(2) 俳句 (haiku) で山梨と世界を結ぶ～国際文芸プロジェクト～

1) 研究目的

本プロジェクトでは、俳句を通じて山梨の文化的遺産を内外に知ってもらい、広めること、そして俳句を通じて国際交流を行い、国際理解を深めることを目的としている。飯田蛇笏・龍太親子からつながる地域文化の発掘と活用を行い、さらには海外の専門家・愛好者との俳句交流によって新たな地域文化の創造の基盤作成を目指す。

2) 研究内容と成果

11月第1週に俳句ウィークを開催して英国からゲストを招聘し、地域の方々との文芸交流を図る各種イベントを行った。

- ① 俳人井上康明氏による模擬句会（日本語俳句と英語俳句の翻訳作業をグループで実施）
- ② 英国から招聘したゲストによる文芸講演会
- ③ 地域の俳句愛好家と英国からのゲストの交流の機会として山梨の文学散歩
- ④ 国際俳句の会会場での飯田蛇笏・龍太の作品パネルおよび人形展示
- ⑤ 同会場におけるロンドン大学ゴールドスミスカレッジの大学院生と山梨県立大学国際コミュニケーション学科の学生らの俳句交流による作品の展示

本プロジェクトに関連して、新聞に掲載された記事

左：平成 27 年 11 月 12 日朝日新聞山梨版

右：11 月 6 日山梨新報



### 3) 研究メンバー

二戸麻砂彦（研究代表者：国際政策学部）、井上康明（研究協力者：俳人、俳誌『郭公』主宰）、波木井昇・高野美千代（共同研究者：国際政策学部）以上4名

（文責：高野 美千代）

## （3）山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究Ⅱ

### 1) 研究目的

「外国語活動」は、児童の英語コミュニケーション能力の素地を育成することを目指しており、これに対する期待と注目度はさらに大きいものとなってきた。より充実した「外国語活動」を広く実践するためには解決すべき課題が多く存在しているため、現状を踏まえ、山梨県内の小学校における「外国語活動」の効果的運営を実現する。

### 2) 研究内容と成果

大きく2つの柱を掲げて研究活動を行った。

#### ①小学校英語担当教師のためのセミナー開催

小学校英語教育の専門家を招き、小学校英語を担当する教諭・ALTのスキル養成を行い、同時に意識改革と意欲向上をはかる実践的集中講座を企画、運営した。今年度は8月と1月の2度にわたって講座を提供することができた。最新の小学校英語教授法を具体的に取り上げ、受講者に大変好評であった。

#### ②地域教材の研究と作成

平成26年度に作成し、県内の小学校に配布した教材については大きく注目を受けることになった。その教材について内容を再検討し、改善する作業を行った。また、教材を使用して英語劇を上演してくれた小学校を訪問してさらなる検討の材料とした。新規教材としては山梨の地域文化を扱う Yamanashi English を作成した。平成28年度には現場で活用し

てもらえることを期待している。将来的には観光部分をより強く意識した教材を作成・配布するための検討を継続して行っている。右は本プロジェクト関連の新聞記事（山梨日日新聞地域面、3月3日）で地域教材を使って英語劇を上演する練習中の児童たちについて扱っている。



### 3) 研究メンバー

研究代表者：高野美千代（国際政策学部）、共同研究者：池田充裕（人間福祉学部）、石田一元（竜王西小学校校長）、伊藤ゆかり（国際政策学部）、松土清（都留文科大学特任教授）、Peter Mountford（国際政策学部）以上6名

（文責：高野 美千代）

#### (4) 中学生とその親を対象とした「いのちの学習会」の効果

##### 1) 研究目的

「いのちの学習会」に参加した中学生とその親の自尊感情の変化、受講後、家庭においてどのような会話をしたいと考えているか、さらには、親の「いのちの学習会」に対する評価を明らかにし、「いのちの学習会」の効果を検討することで、今後の「いのちの学習会」の在り方への示唆を得る。

##### 2) 研究内容と成果

山梨県内の中学校 8 校で、調査を実施した。調査は、中学生の性別、学年、自尊感情の変化、「いのちの学習会」後の家庭での話題、感想等の自由記載、また保護者に対しては、性別、年齢、自尊感情の変化、「いのちの学習会」の評価、家庭での話題と自由記載とした。中学生には 1119 部配布し、回収は 1067 部（回収率 95.4%）、そのうち無回答を 1 つでも含むものを除いた有効回答数は 1031 部（有効回答率 96.6%）であった。また中学生の保護者への配布は 108 部、回答数 86 部（79.6%）、有効回答数は 80 部（93.0%）であった。8 中学校のうち、1 年生を対象は 2 校（男子 135 人、女子 131 人）、2 年生対象が 2 校（男子 104 人、女子 99 人）、3 年生対象が 4 校（男子 281 人、女子 278 人）であった。保護者は男性 5 人、女性 75 人であった。

「いのちの学習会」参加後の生徒の自尊感情に関する質問得点 10 の質問ごとに「強く思うようになった」を 1 点とし、「変わらない」を 0 点として平均を各学年で比較すると、2 年生は 8.26 で、1 年生の 7.58 や 3 年生の 7.00 よりも高く（ $P < .01$ ）、1 年生と 3 年生では差がなかった。保護者の平均は、7.80 であった。男女別での差は見られなかった。質問項目別にみると、3 学年とも「強く思うようになった」が最も多いのは、「自分以外のいのちも大切だと思う」であり、次いで「自分以外の人も大切だと思う」であった。「強く思うようになった」が少なかったのは、「自分は大切な存在だと思う」「今の自分でよいと思う」と、最も少なかった「自分のことが好きだと思う」であった。男女で見ると、「自分のことが好き」については、男子が女子より「強く思うようになった」と回答し（ $P < .01$ ）、「自分以外の人も大切に思う」「自分を理解してくれる人がいる」では、女子の方が男子より「強く思うようになった」と回答した（ $P < .05$ ）。家庭での話題については、「自分が生まれた時の様子や家族の気持ち」を話したいがどの学年も最も多く、「いのちの大切さ」や「家族への感謝」も 4 割から 5 割くらいの生徒が、家庭で話したいと回答していた。

保護者の「強く思うようになった」が最も多いのは、「自分以外のいのちも大切だと思う」と「自分以外の人も大切にしたいと思う」であり、最も少なかったのは、「自分のことが好きだと思う」であった。また、家庭で話したいと思う内容は、「子供が生まれた時の様子や家族の気持ち」「いのちの大切さ」を回答していた。「いのちの学習会」の評価は非常に高く、ほぼ 9 割の人が生徒に伝わったと評価していた。

以上の事から、「いのちの学習会」は、中学生とその保護者の自尊感情を高める効果があると判断できる。もっとも効果的な実施の学年としては、中学 2 年生であることが示唆された。課題としては、「自分ことを好きだと思う」「今のままの自分でよい」など、自分自

身に帰属する自己肯定感を高めるような内容の検討が必要と考える。

### 3) 研究メンバー

研究代表者：名取初美（看護学部）

共同研究者：平田良江、萩原結花、伏見正江（看護学部）

榎原まゆみ、佐藤和子、井上裕子、上原美紀、加茂友香、横山啓子

（山梨県助産師会、いのちの学習会担当者）

（文責：名取 初美）

## （5）〈学びの支援〉に焦点をあてた日本語支援活動—山梨県内の活動の新たな発展に向けて—

### 1) 研究目的

本研究チームは、本学が地域との連携により取り組んできたこれまでの日本語支援活動を踏まえ、新たな日本語支援活動として2つのプロジェクトを始動した。以下が研究目的である。

#### 〈1〉外国人保護者のための進路進学シンポジウムと相談会

[目的]

- ・進路進学シンポジウムと個別相談会を開催し、外国人保護者の進路進学に対する理解認識の実態と課題を見いだす。
- ・2014年に完成した「外国籍児童生徒のための進路進学情報サイト」（6言語対応）の活用状況を把握する。

#### 〈2〉DLA 勉強会&ワークショップ

[目的]

- ・外国人児童生徒の学習支援に携わる関係者の日本語指導力の向上を目的とし、「対話型アセスメント」（DLA：Dialogic Language Assessment）の勉強会を通して、地域で求められている学びの支援のあり方を検討する。

### 2) 研究内容と成果

開学10年という区切りを迎えた今年度、本学がこれまで地域との連携により取り組んできた在住外国人を対象とした日本語支援活動を座談会形式で振り返り、記録資料を作成した。

これを踏まえ、新たに始動した2つのプロジェクトについては以下に当該内容と成果を示す。

#### 〈1〉外国人保護者のための進路進学シンポジウムと相談会について

2015年11月29日（日）に多言語通訳（スペイン語・ポルトガル語・英語・韓国語・中国語）によるシンポジウムと相談会を開催した。参加者は延べ25名で、参加者の国籍分布は日本52%、ブラジル32%、中国8%、台湾4%、USA4%であった。

調査はシンポジウム終了後にヒアリングにより行った。いずれの保護者も子どもの将来や進学に対して真剣に考え、向き合っていることがわかった。しかし、県内の高校の受験制度、来日後の滞在年数による特別試験、世帯年収による補助金給付制度等に関し、情報として「知っている」若しくは「理解している」保護者は少なかった。この結果から、担任や学校との

関わりの問題が示唆された。また「外国籍児童生徒のための進路進学情報サイト」については、全員が「知らない」と回答した。このサイトは母語で読むことができ、日本の文化事情なども紹介されている。しかし、未だ周知されていないことが明らかになり、今後いかにPRしていくかが課題として示された。

#### 〈2〉DLA 勉強会&ワークショップについて

2015年10月～12月に、『DLA〈話す〉』を教材とした輪読と実践による勉強会&ワークショップを開催した。定員20名に対し16名の参加希望があり、各回平均12名の参加があった。

調査は自由記述式アンケートにより行った。回答からは、DLAに対する疑問や評価の難しさ、現場での実践に向けた前向きな姿勢がみられた。また、参加者の学びに対する意識変化もみられ、大学が学びの場をいかに創造していくかが示唆された。

### 3) 研究メンバー

研究代表者：萩原孝恵（国際政策学部）

共同研究者：箕浦一哉（国際政策学部）、小林信子・斉藤祐美（やまなし子ども学習支援連絡協議会）、原田かおり（山梨県立大学非常勤講師）、川手ちなみ（南アルプス市国際交流協会日本語サロン・ソルデアミーゴ太陽の友だち）

（文責：萩原 孝恵）

## （6）山梨県の地域語の商業的、社会的有効活用に関する調査研究

### 1) 研究目的

この研究テーマについては、地域研究交流センター地域研究事業の募集規定である〈D〉その他地域貢献に資すると認められる研究〉に該当する。

地域語とは標準語（または共通語）に対し、当該地域（本研究では山梨）で使用される独特の言葉（いわゆる方言〈俚言・訛語〉）といった意味で使われるのが一般的である。

山梨県内における地域語への愛着度がどの程度浸透しつつあるか、具体的な事例を精査し、更なるその結果を受けて、今後の更なる発展に繋がるような課題を指摘し、地域語活用の実際的な提言に繋げることを目的とする。

### 2) 研究内容と成果

近年、大都会に隣接する山梨県のようないわゆる首都圏では日常会話における地域語（方言）の使用が若者を中心に少なくなっているが、その一方で、地域にとっての方言の持つ特性や“ご当地らしさ”を種々の方面で有効に活用しようとする、いわば逆の動きが出てきていることには注目してよい。

その新しい動きの最大の特色は、書き言葉での発信にも方言を使用する「方言の文字化」があげられる。また、それによって、仲間内だけではなく、経済活動等の多様な目的のために同郷以外の県外の出身者（観光客など）に対する伝達にも方言を使用すること、いわゆる「方言の拡散化」に繋がると考える。

コミュニケーションにおける地域語は標準語や共通語に比べ、親近感やご当地らしさ等の発信力があり、それをポスターや看板・土産品等の物品のネーミングやメッセージとして文字化して活用する。これらによって、観光や商業を始めとする経済活動の意欲喚起や、その他掲示板などの社会生活においても注意喚起等に繋がる効果が期待され、今や全国的な動きとなっているところである。それはまさに「方言パワー」と言えるもので、ここ数年の間に山梨の各方面でも、こうした機運の高まりが感じられるようになった。

2014年04月～09月に放送されたNHK連続テレビ小説『花子とアン』の経済効果は約165億円とされたが、同推進委員会では甲州弁に関するアンケートを実施して、視聴者の雰囲気作りに努めたり、市内では甲州弁関連商品の販売も行われたりしたことから、潜在的効果として、ドラマで使用された地域語（この場合は山梨方言）の働きも少なからぬものがあつたと考えて良いだろう。

今回の調査は何かと予想外のことがあつた。まず、物品の総数であるが、50種を超える数が収集できたことが挙げられる。当初から調査費とスタッフの機動力が非常に心配されたが、現場に出向くだけでなく、製造元の会社と頻りに連絡をとることで、協力が得られたり、情報が広がったり、物品を送ってもらったりしたことが、それらの欠陥を補うことにも繋がったように思われる。したがって、細部では販売品の総数が40種弱、「方言名称」が10種もあることが確認できたこともコンタクトを密にした成果ではないかと思っている。これも意外なことであつた。

もう一つは、製造元・販売元の会社の社長やスタッフから感謝などの言葉がいくつか寄せられたことも意外であると同時に励みにもなった。某会社から送られた情報誌には早速当方とのやり取りの記事が載っていて、その見出しが「悪いじゃんね」とあつた。その他、「背中を押されたようだ。」とか「うれしくなりました。」あるいは「いい方言があつたら教えてください」など。

今後は、調査領域を広げて、この方面での状況把握をより詳細にしていくことが課題であると同時に、それで終わるのではなく、ささやかながらも地域の活性化につながるような有効な発信ができればと願っている。

### 3) 研究メンバー

研究者氏名	所 属	役 割
二戸麻砂彦	国際政策学部	研究代表（総括）
秋山洋一	本学名誉教授	共同研究者（企画・調査・分析）
萩原孝恵	国際政策学部	同上（調査・分析）
大村梓	国際政策学部	同上（調査・分析）
波木井昇	国際政策学部	同上（企画・渉外）
武川清志郎	やまなし 観光推進機構	同上（調査・渉外）
二戸ゼミ学生（15名）	二戸研究室	調査スタッフ

（文責：二戸 麻砂彦）

## (7) A 県内の病院における大雪災害時の取り組みと医療安全上の課題

1) 研究目的 : 大雪災害時の A 県内の病院における患者と医療者の安全についての取り組みの実態を把握し、医療安全上の課題を明らかにする。

### 2) 研究内容と成果

本研究は、平成26年2月の大雪災害時におけるA県内の病院での患者と医療者の安全についての取り組みの実態を把握し、院内の安全確保への課題を明らかにした。それにより、今後A県においても想定される震災・噴火等の自然災害時の院内での安全確保の方策に活用できると考えた。

調査は、A県内全病院（60施設）に依頼書と共に調査票を郵送し、23施設（38%）から回答を得た。調査結果からは、雪害前の取り組みに大変取り組んだと回答した病院は無く、初動対応から通常業務に戻る過程で徐々に取り組んでいたことが分かった。また、記述回答の分析からは取り組みについての以下のカテゴリー〈 〉、サブカテゴリー《 》等が抽出された。

雪害前の災害準備では、〈事前準備〉、雪害時の初動対応では、〈非常時の医療体制の確保に向けた取り組み〉について、取り組んだと回答した内容は、《情報の一元化》《非常時の勤務体制の確保》があった。取り組めなかったとの回答で特記されるのは、《見通しが立てられない》《災害時の対応は他部署の業務》であった。初動対応後～通常業務に戻るまでの〈医療体制の安定を目指した取り組み〉について、取り組んだと回答した内容は、《職員の安全》《非常時の勤務体制の確保》があり、さらに通常業務に戻った後の〈雪害対策の整備への取り組み〉では、取り組んだ内容として、《反省》《次への備え》、取り組めなかったと回答した内容には《次への備え マイナス面》があった。

チーム連携の観点からの対応状況では、〈雪害時の院内・地域との連携〉について、取り組んだ内容は、《業務協力・連携》《職員の健康管理・休息》《地域からの協力》があった。取り組めなかった内容は、《業務協力・連携（マイナス面）》があった。各部門が独自の判断で行っていた取り組みでは、〈看護部〉〈透析室〉〈栄養科〉の記載が多かった。また、雪害への取り組み後に災害マニュアルの改訂を行った病院は17施設（74%）あり、迅速に対応している様子が窺われた。

以上から考察として、災害時の安全への課題と提案として、①災害時の患者と職員の安全確保と健康状態の管理や不安への対応、②災害時に迅速に対応できる組織体制の構築として、院内体制、県や市町村庁、県外との情報発信システムの確立、ライフラインの確保、③研修・訓練（各自が自覚的に対応できるための研修会の内容の工夫と定期的な開催、シミュレーション等の実践的な訓練方法の導入）、④院内の連携・支援体制作り、⑤震災、火災とともに雪

害、水害、火山噴火時の対応を盛り込んだ災害マニュアルや災害時 BCP の作成、が考えられた。また、医療安全管理者の役割として、①雪害を含む災害時マニュアルへの医療安全の観点からの方策の導入、②災害時の病院全体の業務継続計画（BCP）への医療安全に関する委員会（医療安全・感染管理・労働安全・医療機器等）の活動の組み入れと定期的な見直し、③院内での DMAT や防災委員会と医療安全委員会の連携の考え方の意識付けと役割の明確化、④院長や医療安全管理者が不在の場合の安全確保システムの検討等が考えられた。

本研究の成果は、3月6日に開催された山梨医療安全研究会第11回大会において、県下の医療・介護施設から参加した120名余りの多職種の専門職に報告した。また県下の全病院に本報告書を配布し、今後の災害時の安全確保に活用して頂くこととした。

### 3) 研究メンバー

研究代表者：小林美雪（山梨県立大学看護学部 成人看護学）

共同研究者：石井仁士（甲府城南病院）、古屋塩美（山梨大学医学部附属病院）、渡辺久子（山梨赤十字病院）、一瀬明信（宮川病院）、須山千恵（富士吉田市立病院）、流石ゆり子（山梨県立大学看護学部 老年看護学）、上條 優子（山梨県立大学看護学部 看護管理学）

（文責：小林 美雪）

## 2. 研究報告会

2015年度の研究報告会が、2016年3月22日（火）13:00～17:00に飯田キャンパスA館6階サテライト教室で行われた。7つの研究事業の報告・質疑が行われ、延べ113名の参加があった。

# 戦略開発部門

## 1. 戦略開発部門事業の概要

### (1) 本部門の設置目的

本部門の設置目的は、各種補助金、助成金や委託事業などの情報を収集し、学内に広報すること、およびそれらの外務資金が獲得しやすいような環境を学内に整備していくことにある。

### (2) 山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案の検討

平成 29 年度「地（知）の拠点整備事業（以下、COC 事業と省略）」の終了に伴い、地域研究交流センター（以下本センターと省略）では、COC 事業の成果を引き継ぎ発展させることとなる。

そのため本センターでは、第 1 回センター運営委員会（2015 年 4 月 21 日）において、平成 25 度に採択された「地（知）の拠点整備事業（COC）」により本学に設置された地域戦略総合センターとの事業統合計画を検討した。その結果、平成 27 年度に本学も参加して新たに文部科学省に申請する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の動向を見極め、再度改編案を検討することとなった。したがって平成 26 年度戦略開発部門で検討した下記の改編案を本センターの暫定案とした。

その後、COC+事業が採択され、実施体制もほぼ確定したため、第 7 回センター運営委員会（2016 年 3 月 17 日）で、再度本案が検討された。その結果、本センターでは、前倒して平成 28 年度より COC 事業によって本学に設置された地域戦略総合センターとの事業統合案を検討することとした。

## 2. 山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案（2015 年 4 月 21 日）

### 1、概要

- (1) 平成 29 年度「地（知）の拠点による地方創生推進事業（以下、大学 COC 事業と省略）」の終了に伴い、山梨県立大学地域研究交流センターが大学 COC 事業の成果を引き継ぎ発展させることで、山梨県における知の拠点となることを目指す。
- (2) そのため地域研究交流センターは、大学 COC 事業を運営する旧地域戦略総合センターの業務を統合するため、組織の改組を行う。その際、新たなセンター内に、フューチャーセンター、生涯学習センター、地域総合戦略センターの 3 つのサブセンターを設置する。
- (3) 以上を通じて、次の 2 点の研究教育における改革を推進する。
  - A) 山梨県立大学および地域研究交流センターの地域貢献事業を、学術的・教育的視点を活かして、地域のニーズに応えるための機能を強化する。
  - B) 山梨県立大学の地域貢献を、学生と教職員が主体的・積極的に参加する教育及び研究活動として展開させることで、本学の人材育成能力を向上させる。

### 2、組織の改編案

#### (1) 地域研究交流センター運営委員会

##### 1) 概要

- A) 最高意思決定機関として統合後の新センターの運営と山梨県立大学研究教育審議会への業務報告を行う。業務は、本センターの運営委員会と大学 COC 事業の学内連絡会議の業務を引き継ぐ。
- B) 新たに設置するフューチャーセンター、生涯学習センター、地域総合戦略センターの3つのサブセンターの連絡調整・協議機関とする。
- C) サブセンターごとにサブセンター長を任命し、同人を地域研究交流センターの副センター長として任命する。
- D) 運営委員会は、センター長と副センター長（サブセンター長）および運営委員を構成メンバーとする（2月～3月/1回程度）。各サブセンターの運営と日常業務は、各サブセンターに権限移譲する。

## 2) 事務局職員

- A) 事務局職員は、旧地域研究交流センターに配属されている正職員1名と臨時職員1名を充てる。

## (2) フューチャーセンター

### 1) 業務内容

- A) 旧地域研究交流センターの交流支援部門と情報発信部門、大学 COC 事業の旧フューチャーセンターを引き継ぎ、行政・民間・NPO などとの対話窓口とする。特に協定を締結した自治体・民間団体との定期協議を重視する。
- B) 副センター長（サブセンター長）、各学科の専任教員を加え組織する。あわせて大学 COC 事業での知見を活かすため、旧地域戦略総合センターのディレクターも構成員に加える。交流事業は、従来のセンター委員による事業から、全学教員を対象とした交流事業に転換する。
- C) センター全体のニューズレターの発行と、大学ホームページでの情報発信を行う。ニューズレターは、紙媒体からSNSを含む電子媒体に情報発信手段を移行できるか否か検討する。
- D) そのほかセンター全体の活動記録である「地域研究交流センター年報」の作成を行う（1回/年）。

### 2) 事務局職員

- A) 事務局職員は、旧地域研究交流センターに配属されている正職員1名と臨時職員1名を充てる（地域研究交流センター運営委員会担当者と兼務）。

## (3) 生涯学習センター

### 1) 業務内容

- A) 旧地域研究交流センターの生涯学習部門の事業と、大学 COC 事業で実施した市民向け公開講座などの事業を引き継ぐ。
- B) あわせて従来の各学部で実施する高大連携事業、社会人向け教育講座、専門職の再教育講座、学部連携講座などを支援する。
- C) 大学コンソーシアムやまなしから依頼される、他大学と連携した地域向け公開講座を実施する。
- D) 副センター長（サブセンター長）、各学科の専任教員を加え組織する。

### 2) 事務局職員

- A) 事務局職員は、旧地域研究交流センターに配属されている正職員 1 名と臨時職員 1 名を充てる（地域研究交流センター運営委員会担当者と兼務）。

#### (4) 地域総合戦略センター

##### 1) 業務内容

- A) 旧地域研究交流センターの地域研究部門と戦略開発部門の事業と、大学 COC 事業で実施した地域志向教育研究などの事業を引き継ぐ。本部門は、地域研究交流センターの 2 名の特任教授（旧地域戦略総合センターディレクター）と、各学科の専任教員を加え組織する。
- B) 旧地域研究交流センターの共同研究・プロジェクト研究と、大学 COC 事業の地域志向教育研究のコンセプトを継承し、教員による地域研究から、教職員・学生による教育活動の要素を持った研究教育事業に重点を移す。
- C) 上記のほか、外部の受託・助成事業などによる地域志向教育研究の充実を図る。
- D) あわせて必要に応じて他大学と共同で受託・助成事業（研究）に応募できるようにするため、大学コンソーシアムやまなしなどを通じた、他大学との連携受託機能を持たせる。

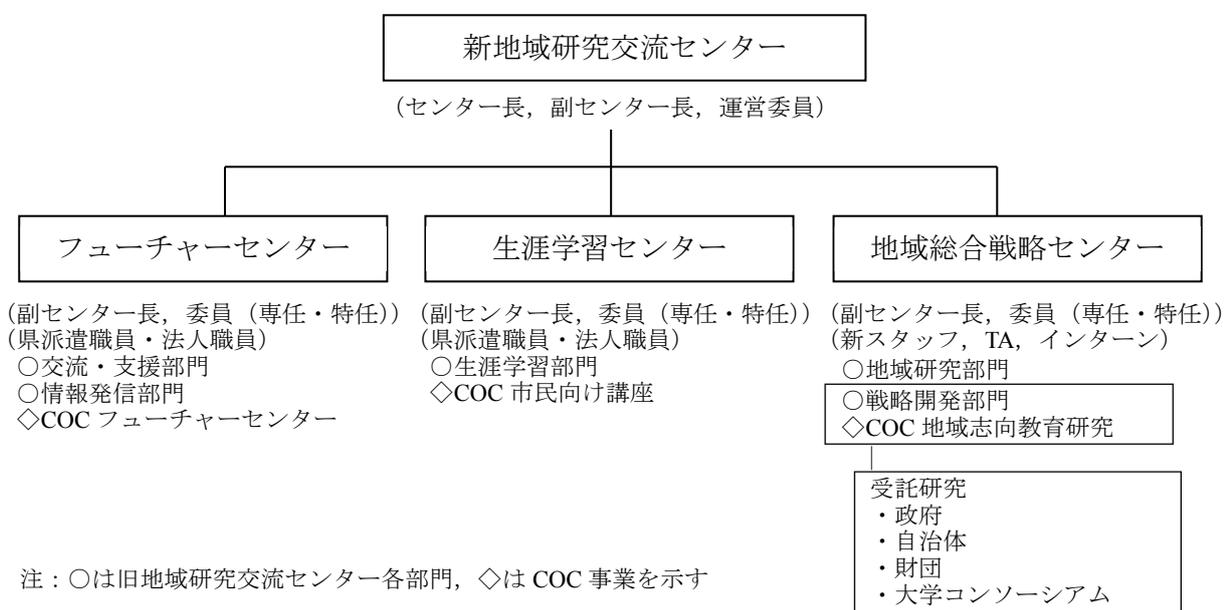
##### 2) 事務局職員

- A) 受託事業を継続するため、専任の臨時雇用職員を新たに 1～2 名配置する（旧地域戦略総合センターのコーディネーターよりの採用を優先する）。
- B) その給与は、同サブセンターの受託事業の収益を充てる。
- C) そのほか必要に応じて、長期の学部生インターンを配置する。国際政策学部・人間福祉学部での大学院設置後は、大学院生によるインターンやティーチングアシスタントを配置する。以上の必要経費は、受託研究の収益より捻出する。

#### 3、そのほか

- (1) 旧地域戦略総合センターのディレクター以外の特任教授は、旧地域研究交流センターでの業務内容のまま維持する。

#### 組織図



# 事務局

## 1. 運営委員会記録

### 1. 第1回 平成27年4月21日（火）

主な協議・報告事項：平成27年度の委員配置について／平成27年度予算について／平成27年度共同研究・プロジェクト研究公募について／平成27年度春季総合講座について／平成27年度子育て支援リーダー・ステップアップ講座について／2014年度センター年報の発行について

### 2. 第2回 平成27年7月14日（火）

主な協議・報告事項：平成27年度共同研究・プロジェクト研究の区分について／観光講座2015の企画について／「教員の地域貢献活動」支援申請について／秋季総合講座について／平成27年度県民コミュニティーカレッジについて／ニューズレターNo.26について

### 3. 第3回 平成27年10月20日（火）

主な協議・報告事項：地域研究事業に関わる外部評価委員について／平成27年度補正予算について／「教員の地域貢献活動」支援について／「やまなしの女性史を学ぶ」講座について／健康講座について／国際政策学部共催講演会について／観光講座2015実施報告／高大連携事業について／CO-C+の採択について

### 4. 第4回 平成27年11月17日（火）

主な協議・報告事項：学生優秀地域プロジェクトについて／平成28年度当初予算について／「社会人向け夜間講座」について／平成27年度子育て支援リーダー・ステップアップ講座実施報告／県民コミュニティーカレッジ実施報告

### 5. 第5回 平成27年12月15日（水）

主な協議・報告事項：2015研究報告会について／前年度地域研究事業の評価結果について／ソーシャルワークセミナーについて／健康講座実施報告／子育て支援フォーラム実施報告／学生優秀地域プロジェクトについて／「やまなしの女性史を学ぶ」実施報告

### 6. 第6回 平成28年1月19日（火）

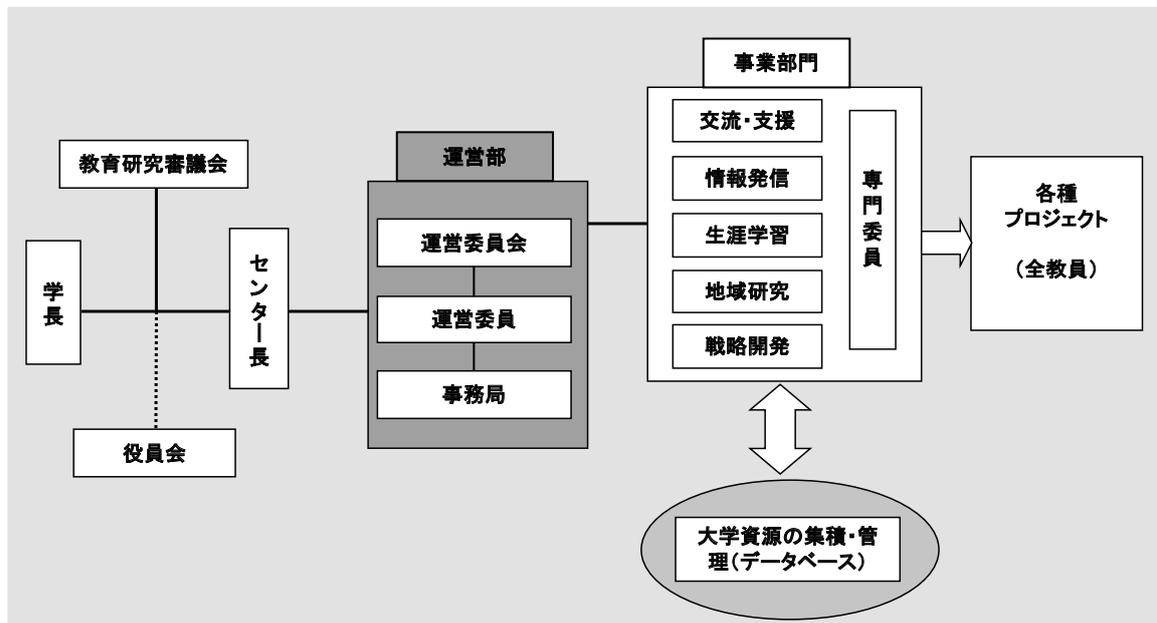
主な協議・報告事項：2015研究報告会について／学生表彰のセンター推薦候補について／観光講座2015報告書作成について／2015年度センター年報の編集について／学生優秀地域プロジェクトの選考結果について

### 7. 第7回 平成28年3月17日（木）

主な協議・報告事項：特任教授の推薦（再契約）について／次年度地域研究事業の公募について／平成27年度高大連携授業実施報告／池田地区健康まつり参加報告／平成28年度当初予算について

## 2. 組織図・委員名簿

### (1) 組織図



### (2) 委員名簿

	総合政策学 科	国際コミュニ ケーション学 科	福祉コミュニ ティ学科	人間形成学 科	看護学科	地域研究交 流センター特 任	国際教育研 究センター
地域研究交流センター 運営委員会	波木井昇	●二戸麻砂彦 吉田均 兼清慎一	藤谷秀 青柳暁子 高木寛之	村木洋子	村松照美 渡邊裕子	興水達司 池田政子	任君三 橋本憲幸
事業部門 (専門委員)	交流・支援	兼清慎一	◎青柳暁子 川池智子		小林美雪		
	情報発信	ケヴィン・ブラウン	◎藤谷秀	○古屋祥子	小尾栄子		
	生涯学習		大村桂	高木寛之	◎村木洋子	村松照美 茂手木明美	
	地域研究	◎波木井昇 申龍徹				柳田正明	興水達司
	戦略開発		◎吉田均			渡邊裕子	
特別担当	看護・福祉専門職支援コーディネーター		高木寛之 川池智子		渡邊裕子		

運営委員は専門委員を兼務 ●センター長 ◎部門長 ○副部門長

下線:運営委員以外の専門委員

### 3. 地域研究交流センター委員一覧

学 部	学 科	氏 名	専 門 領 域
国際政策学部	総合政策学科	* 波木井 昇	国際金融、国際経済
		ケヴィン・ブラウン	Language Testing
		申 龍徹	政治学、行政学、公共政策
	国際コミュニケーション学科	* 二戸 麻砂彦	日本語学、言語学
		* 吉田 均	国際開発、国際協力
		* 兼清 慎一	マスメディア論
		大村 梓	日本文学
	国際教育研究センター	* 任 君三	アジア太平洋地域の国際関係
		* 橋本 憲幸	国際教育開発論、教育哲学
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	* 藤谷 秀	倫理学、哲学
		* 青柳 暁子	介護福祉(生活支援技術)
		* 高木 寛之	地域福祉
		柳田 正明	知的障害者福祉、地域生活支援
		川池 智子	社会福祉原論、児童・障害児福祉
	人間形成学科	* 村木 洋子	音楽、ピアノ
		古屋 祥子	美術、彫刻
看護学部	看護学科	* 村松 照美	地域看護学
		* 渡邊 裕子	老年看護学
		小林 美雪	成人看護学
		小尾 栄子	地域看護学
地域研究交流センター特任教授		* 輿水 達司	地質学、地下水学、地球環境科学
		* 池田 政子	心理学、ジェンダー研究

(\* 運営委員)

資料 1. 年間の時系列記録

年 月 日	事業・行事名	部門名
2015年4月21日	第1回地域研究交流センター運営委員会	
2015年4月21日	前期授業開放講座受講申込み締切	生涯学習
2015年5月12日	第1回生涯学習部門会議	生涯学習
2015年5月20日	地域研究交流センター2014年度年報発行	情報発信
2015年5月26日	第1回情報発信部門会議	情報発信
2015年5月28日	地域研究事業(プロジェクト研究・共同研究)評価委員会	地域研究
2015年5月29日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」第25号発行	情報発信
2015年6月3日	地域研究事業(プロジェクト研究・共同研究)選考委員会	地域研究
2015年6月7日	日本語・日本文化講座(1)	生涯学習
2015年6月12日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年6月14日	日本語・日本文化講座(2)	生涯学習
2015年6月16日	第2回情報発信部門会議	情報発信
2015年6月17日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(1)	生涯学習
2015年6月18日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(1)	生涯学習
2015年6月19日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(2)	生涯学習
2015年6月21日	日本語・日本文化講座(3)	生涯学習
2015年6月23日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(2)	生涯学習
2015年6月24日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(3)	生涯学習
2015年6月25日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(3)	生涯学習
2015年6月26日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年6月26日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(4)(5)	生涯学習

2015年6月28日	日本語・日本文化講座(4)	生涯学習
2015年6月30日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(4)	生涯学習
2015年7月1日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(6)	生涯学習
2015年7月2日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(5)	生涯学習
2015年7月5日	日本語・日本文化講座(5)	生涯学習
2015年7月5日	観光講座(1)	生涯学習
2015年7月10日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年7月12日	日本語・日本文化講座(6)	生涯学習
2015年7月14日	第2回地域研究交流センター運営委員会	
2015年7月19日	日本語・日本文化講座(7)	生涯学習
2015年7月30日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年8月2日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年8月9日	観光講座(2)	生涯学習
2015年8月30日	甲府市池田地区総合防災訓練への参加・協力(看護学部)	交流・支援
2015年8月30日	観光講座(3)	生涯学習
2015年9月1日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年9月4日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第26号発行	情報発信
2015年9月5日	秋季総合講座	生涯学習
2015年9月6日	観光講座(4)	生涯学習
2015年9月15日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年9月25日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年9月26日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(1)	生涯学習
2015年9月29日	第3回情報発信部門会議	情報発信

2015年10月2日	後期授業開放講座受講申込み締切	生涯学習
2015年10月4日	日本語・日本文化講座(8)	生涯学習
2015年10月4日	観光講座(5)	生涯学習
2015年10月9日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年10月11日	県民コミュニティーカレッジ(広域ベース講座)	生涯学習
2015年10月14日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(6)	生涯学習
2015年10月17日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(2)	生涯学習
2015年10月18日	県民コミュニティーカレッジ(広域ベース講座)	生涯学習
2015年10月18日	日本語・日本文化講座(9)	生涯学習
2015年10月20日	第3回地域研究交流センター運営委員会	
2015年10月20日	第1回地域研究部門会議	地域研究
2015年10月20日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(7)	生涯学習
2015年10月21日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(7)	生涯学習
2015年10月23日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2015年10月23日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(8)(9)	生涯学習
2015年10月24日	穴山町サンマ祭り2015	生涯学習
2015年10月25日	日本語・日本文化講座(10)	生涯学習
2015年10月27日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(8)	生涯学習
2015年10月29日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(9)	生涯学習
2015年10月30日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(10)	生涯学習
2015年10月31日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(3)	生涯学習
2015年11月1日	日本語・日本文化講座(11)	生涯学習
2015年11月4日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(11)(12)	生涯学習

2015年11月5日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(10)	生涯学習
2015年11月14日	県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)(4)	生涯学習
2015年11月15日	日本語・日本文化講座(12)	生涯学習
2015年11月15日	「やまなしの女性史を学ぶ」講座(1)	生涯学習
2015年11月17日	第4回地域研究交流センター運営委員会	
2015年11月19日	第4回情報発信部門会議	情報発信
2015年11月22日	「やまなしの女性史を学ぶ」講座(2)	生涯学習
2015年11月29日	日本語・日本文化講座(13)	生涯学習
2015年11月29日	健康講座	生涯学習
2015年12月4日	国際政策学部共催講演会	生涯学習
2015年12月5日	子育て支援フォーラム	生涯学習
2015年12月6日	日本語・日本文化講座(14)	生涯学習
2015年12月13日	日本語・日本文化講座(15)	生涯学習
2015年12月15日	第5回地域研究交流センター運営委員会	
2016年1月5日	学生優秀地域プロジェクト選考委員会	交流・支援
2016年1月19日	第6回地域研究交流センター運営委員会	
2016年1月19日	第2回地域研究部門会議	地域研究
2016年1月19日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(11)	生涯学習
2016年1月20日	ソーシャルワークセミナー2015	生涯学習
2016年1月20日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(13)(14)	生涯学習
2016年1月21日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(12)	生涯学習
2016年1月22日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(15)(16)	生涯学習
2016年1月26日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(13)	生涯学習

2016年1月27日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(17)	生涯学習
2016年1月28日	学生優秀地域プロジェクト認定式	交流・支援
2016年1月28日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)(14)(15)	生涯学習
2016年1月29日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)(18)	生涯学習
2016年2月5日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」第27号発行	情報発信
2016年3月2日	第5回情報発信部門会議	情報発信
2016年3月5日	県民コミュニティーカレッジ(広域ベース講座)	生涯学習
2016年3月6日	甲府市池田地区健康まつりへの参加・協力(看護学部)	交流・支援
2016年3月17日	第7回地域研究交流センター運営委員会	
2016年3月22日	2015地域研究交流センター研究報告会	地域研究

学ぶ喜びを一緒に。

山梨県立大学は、平成17年に開学以来、地域や社会に開かれた大学をめざした取り組みを進めております。今期も、大学の正規の授業を受講できる授業開放講座を開講いたします。学生たちと共に学ぶ授業開放講座に、広く、県民の皆様が受講されることを、お待ち申し上げます。

受講生募集

# 山梨県立大学 前期 授業開放講座 2015

## 受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方ならどなたでも受講応募ができます。受講の決定にあたっては、各科目担当教員が選考条件を定めますので、その条件をご確認ください。なお、大学院看護学研究科の授業開放科目は、大学卒業程度以上の学力を有することが、基本的な要件となります。

## 授業開始日 平成27年4月14日(火)

**場所** 山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1)  
山梨県立大学池田キャンパス(甲府市池田1-6-1)  
授業によって異なりますので、別途配布する募集要項でご確認ください。

## 募集要項の請求

受講生募集要項の事前予約を受け付けます。実際の配布は平成27年3月下旬から行う予定です。TEL055-224-5260、FAX055-224-5386、Eメール(ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にて平成27年度前期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付をお申し込みください。なおFAXまたはEメールの場合、件名として「平成27年度前期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付希望」とお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

## 講座の試聴

受講を考えているが、講座の内容がよく分からないので確認したいという方は、平成27年4月14日(火)～4月21日(火)まで講座の試聴をすることができます。TEL055-224-5260、FAX055-224-5386、Eメール(ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にて、受講しようとする科目の開講の前日までに山梨県立大学授業開放講座試聴申込書を提出してください。

## 受講申込書の送付先及び申込期限

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1  
山梨県立大学学務課  
平成27年4月21日(火) 午後5時【必着】



**飯田キャンパス**(国際政策学部・人間福祉学部)  
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1  
TEL 055-224-5261 FAX 055-228-6819

**池田キャンパス**(看護学部・大学院看護学研究科)  
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1  
TEL 055-253-7780 FAX 055-253-7781



# 日本で生活する外国人のための 2015 日本語・ 日本文化講座



For foreigners living in Japan

Japanese language and culture course

外国人生活在日本、日本語習得文化課程

일본에서 생활하는 외국인들을 위한 일본어, 일본문화 강좌

Para os estrangeiros que vivem no Japão Curso de língua e cultura japonesa

Para los extranjeros que viven en Japón Curso de lengua y cultura japonesa



	前期	後期
時間	13:00 ~ 15:00	
レベル	会話1(入門)、会話2(初級)、会話3(初中級)、文字クラス(漢字と語彙クラス)	
講座日 ※講座日は変更になる場合があります。	6月: 7、14、21、28 日 7月: 5、12、 19日(文化講座「川柳」)	10月: 4、18、25日 11月: 1、15、29日 12月: 6、 13日(文化講座「年賀状の書き方」)
受講料	無料 ※教材料は自己負担(2,000円~3,000円)	
場所	山梨県立大学 飯田キャンパスA館6F(A606他) 甲府市飯田5-11-1	
駐車場	あり	

お問い合わせ

☎お問合せ☎

やまなしけんりつだいがく

山梨県立大学 学務課 TEL055-224-5260

主催: 山梨県立大学 / 甲府市

連携: 山梨県外国人ネットワーク オアシス

※受講にあたり、事前申請は不要です。

# 山梨の温故知新 ～自然と人の関係から探る～

日本列島の中央部に位置する山梨県は、大都市東京の近くにありながら、富士山や南アルプスなど豊かな自然に恵まれ、この自然と共に暮らしてきた先祖からの生活・文化などにも、独特なものが今に伝えられています。山梨の自然と人の関わりにつき、歴史・科学的にその変遷を探る視点で、今回の講演を企画しました。山梨の魅力再発見の手助けになる情報を、この講演会で学んでみませんか。

開催時間 (受付は12時30分から)  
**午後1時～午後4時30分**  
開催場所 (甲府市飯田5-11-1)  
**山梨県立大学飯田キャンパス 講堂**



7月5日(日)

山梨の気象特性の昔から最近の話題まで ..... 気象キャスター 林 英美  
山梨県内の熱中症発生状況から対策を考える ..... 山梨県富士山科学研究所 宇野 忠

8月9日(日)

富士山の土石流災害の歴史 ..... ふじさんミュージアム 篠原 武  
南アルプスの山岳環境を科学で探る ..... 環境省南アルプス保護官事務所 仁田晃司

8月30日(日)

富士山と八ヶ岳の山体崩壊 ..... 山梨県立大学 輿水達司  
七里岩の自然を活かした歴史・文化 ..... 山梨県考古学協会 新津 健

9月6日(日)

山梨の縄文時代の栽培植物と稲作起源 ..... 山梨県教育委員会 中山誠二  
きのこを通して山梨の自然・環境を考える ..... 山梨県森林総合研究所 柴田 尚

10月4日(日)

山梨の自然が育んだ馬産の歴史 ..... 山梨県立博物館 植月 学  
増えているニホンジカとのつきあい方 ..... 山梨県森林総合研究所 長池卓男

参加申込: TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386  
E-mail [ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp) にてお申し込みください。

なお、FAXまたはE-mailの場合、件名として「観光講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター



山梨県立大学 地域研究交流センター

## 秋季総合講座

# よりよく学び 生きるために

人はいくつになっても、学び続けることで成長し、  
学び始めるのに遅すぎることはありません。  
この機会に山梨県立大学を訪れてみませんか？

### 「なぜ学ぶ、学ぶよろこび」

講師：瀧田 武彦 山梨県立大学 理事

### 「福祉でまちを考える

～ 助け合いってどんなこと？ ～

講師：高木 寛之 山梨県立大学 講師

### 「Introduction to Comparative Cultural Studies」

講師：大村 梓 山梨県立大学 講師

2015 時間 13:30～16:00 (開場 13:00)  
会場 山梨県立大学飯田キャンパス講堂

**9/5** <参加申し込み> 参加費無料

土 電話 (055-224-5260)、FAX (055-224-5386)、  
Eメール (ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp) にてお申込み下さい。  
なお、FAX または、Eメールの場合、件名として「秋季総合講座への参  
加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入下さい。

<http://www.yamanashi-ken.jp>

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター

公立大学法人  
 **山梨県立大学**  
Yamanashi Prefectural University

# 平成27年度後期 山梨県立大学 授業開放講座

## 受講生募集

### 受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方、  
及び担当教員の定める選考条件を満たす方

### 平成27年度後期開講予定科目

※変更の可能性がございますので、要項でお確かめください。

- ・人間と思想
- ・発達と教育の心理
- ・日本語の構造(音韻・文字)
- ・文化政策論
- ・マスメディア論Ⅱ
- ・日中関係の歴史
- ・英文法1
- ・国際協力論
- ・国際開発論
- ・言語学概論
- ・障がい児保育
- ・社会理論と社会システム
- ・社会保障論Ⅱ
- ・障害者福祉論Ⅱ
- ・精神疾患とその治療Ⅰ
- ・被服環境学
- ・多文化教育論(中・高)
- ・母性看護学Ⅰ
- ・心理学 他

受講料 1講座につき8,640円

### 後期授業開始日

平成27年9月25日(金)より順次

### 試聴期間

平成27年9月25日(金)～平成27年10月2日(金)

### 受講申込期限

平成27年10月2日(金)午後5時必着

### 募集要項(受講申込書・試聴申込書を含む)の入手方法

※9月上旬より要項の配付を開始します。

- ・山梨県立大学ホームページよりダウンロード
- ・山梨県立大学地域研究交流センターホームページよりダウンロード
- ・山梨県立大学飯田キャンパス学務課窓口での受け取り
- ・郵送(氏名、住所、電話番号、必要部数を明記の上、メールまたはFAXでご請求ください。)

### 申し込み先・要項請求先

山梨県立大学地域研究交流センター(学務課)

TEL:055-224-5260(平日9:00-17:00)

FAX:055-224-5386

メール:ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

知を深め、  
人生を豊かに。  
山梨県立大学では、大学の正規の授業を受講できる  
授業開放講座を開講いたします。  
学生たちと共に、もう一度学んでみませんか。



飯田キャンパス(国際政策学部・人間福祉学部)  
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1  
TEL 055-224-5261 FAX 055-228-6819

池田キャンパス(看護学部・大学院看護学研究科)  
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1  
TEL 055-253-7780 FAX 055-253-7781



平成27年度 県民コミュニティーカレッジ(地域ベース講座)

# よりよく 生きるために 死ぬために

自分の生活、自分の生き方を  
振り返ってみて、  
これからの人生の価値を  
見つめ直してみませんか。

第1回 「よく生きること」と「死を思うこと」 ～「生」と「死」を哲学する～  
9.26 土

山梨県立大学人間福祉学部教授 藤谷 秀

第2回 脳も身体も元気が一番 ～ロコモ&認知症予防で健康寿命を延ばそう～  
10.17 土

山梨県厚生農業協同組合連合会  
山梨県厚生連健康管理センター 健康運動指導士 三森 真里

第3回 エンド オブ ライフ(end of life)を自分らしく生きるために  
10.24 土

山梨県立大学看護学部教授 流石 ゆり子

第4回 お墓の中まで持っていけますか? ～成年後見と信託から学ぶ老後のための財産管理術～  
11.14 土

山梨県立大学国際政策学部教授 澁谷 彰久

時間：14時～15時半(受付は13時半から)

場所：山梨県立大学飯田キャンパス A館6階 サテライト教室

### 参加申込 (参加費用は無料です)

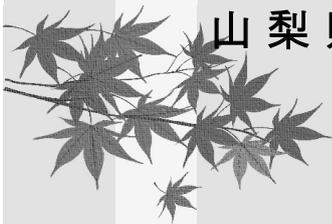
電話番号(055-224-5260)、FAX(055-224-5386)、  
Eメール(ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にてお申込みください。  
なお、FAXまたはEメールの場合、件名として  
「平成27年度県民コミュニティーカレッジ(地域ベース)」をお書き  
いただき、氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

◆主催：山梨県立大学 地域研究交流センター



公立大学法人

 **山梨県立大学**  
Yamanashi Prefectural University



山梨県立大学地域研究交流センター  
健康講座



# 3世代

## あなたもわたしも いきいき健康づくり ～みんなで楽しみながら 身体を動かそう～



おじいちゃんおばあちゃん、パパママ、お子さん  
どなたでも、楽しく運動できます！  
動きやすい服装でお越しください！！

**日時：11月29日(日)**  
**10:00～11:30 受付9:30～**

**場所：山梨県立大学 池田キャンパス体育館**

**講師：木村清 岩崎大貴**

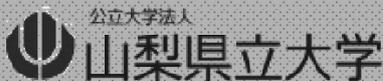
(K2ライフサポート)

参加申込

TEL:055-253-7780 FAX:055-253-7781  
Eメール：ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp  
FAXまたはメールの場合、件名として「健康講座」  
をお書きいただき『氏名、住所、年齢、参加人数』  
をご記入ください。

タオルを  
ご持参下さい  
(運動で使用します)

参加無料



池田キャンパス  
(看護学部・大学院看護学研究科)  
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1



# 文芸翻訳のはなし

— 耕し、育てる悦びと苦しみ —

翻訳は、単に言葉を違う文化圏の言葉に変換する作業ではありません。そこには、言葉を通して文化を翻訳するという重要な役割があるのです。翻訳家たちは原語テキストの意味をできるだけ尊重しながら、訳語テキストの読者たちが理解できる文章を作り出すために日々苦心しています。

## 講師 堀江里美

1981年東京生まれ。翻訳家。訳書に、D・カリン『コロンバイン銃乱射事件の真実』（河出書房新社）、R・プライス『黄金の街』（講談社文庫）など。今年11月にゼイディー・スミス『美について』（河出書房新社）、映画版『パディントン』のノベライズ(キノブックス)を刊行予定。

2015年12月4日 16:30-18:00

山梨県立大学飯田キャンパス A館サテライト教室

\* 事前申し込み不要・聴講無料

山梨県立大学  
地域研究交流センター・国際政策学部共催講演会  
400-0035  
山梨甲府市飯田5-11-1

司会  
国際政策学部 大村 梓

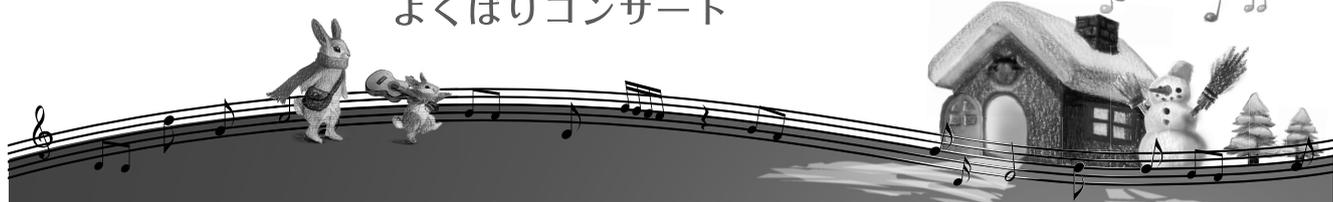
問い合わせ先  
055-224-5260

山梨県立大学 第8回 子育て支援フォーラム

# おんがくのおへやへようこそ

ヴァイオリンとピアノによる  
よくばりコンサート

2015



音楽が大好きなのに、子ども連れではコンサートへなかなか行けないですね。  
今回の企画は、子育て中の皆様が、お子様と一緒に音楽を楽しむ会です。  
プロの演奏家としてご活躍中のお二人による演奏と参加型の音楽会。  
県立大からのクリスマスプレゼントです！ ぜひ、ご参加ください！



## ヴァイオリン アテフ・ハリム

エジプト人の父とフランス人の母の間にカイロに生まれ、5歳でバイオリンを始め9歳でデビューを果たす。13歳で単身パリに渡りパリ国立高等音楽院を卒業。フランス国立管弦楽団コンサートマスターを務める。ヨーロッパ各地の音楽祭やTV・ラジオ出演も多数。CD制作ではル・モンド誌、ディアパゾン誌上で最優秀賞『四つ星』を受賞、<最も知的で輝かしい音楽家>と賞賛された。1993年日本での演奏活動開始、全国でリサイタルを展開し国内外のオーケストラとの共演も多数。また“赤ちゃんと寄り添って聴くコンサート”シリーズではクラシック音楽の楽しさを幅広く伝えている。

## ピアノ 村木 洋子

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 准教授

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業 同大学大学院音楽学専攻修了。1989年フランス音楽コンクールピアノ部門第3位入賞作・編曲の作品も多く、パソコンゲーム音楽（『冒険浪漫』システムソフト）も手がけるマルチピアニスト



2015  
日時：12/5 14:00~15:30

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

対象：子育て中の方、子育て支援関係者、保育・教育関係者、学生、その他

定員：親子50組を優先 お一人のご参加もOKです！ 参加費：無料

問い合わせ・お申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター Tel. 055-224-5260

メールでお申込みの場合：件名を子育て支援フォーラム申込とし、[ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)へ

12/1までに代表者お名前、参加人数、お子様の年齢、ご住所、ご連絡先電話（携帯可）をお知らせください。

ただし、定員になり次第、締め切らせていただきます。ご了承ください。

主催：山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

共催：山梨県立大学 地域研究交流センター

- 演奏予定曲目
- タイスの瞑想曲
  - アヴェ・マリア
  - 愛の挨拶
  - ユモレスク
  - 赤とんぼ
  - トルコ行進曲
  - 愛の夢
  - 子犬のワルツ
  - ラ・カンパネラ
  - クリスマスソング
  - 他

山梨県立大学 地域研究交流センター・  
人間福祉学部共催

「思い」を形に、「社会資源の開発」と  
「地域に“在る”場所」をつくるには  
\*\*\*\*\*

ソーシャルワークセミナー2015

事前申し込み不要・  
参加料

**無料**

〔日時〕 平成28年1月20日(水) 18:00~19:30

〔会場〕 A館6階サテライト教室(山梨県立大学飯田キャンパス)

〔参加資格〕 医療・保健・福祉に携わる現任職員、学生 等

講師：NPO法人 みつばのくろーばー 代表 堀内 直也 氏 (本学卒業生)

【内容】

「社会資源の開発」というフレーズは、社会福祉士養成課程において、何度も耳にするフレーズです。しかし、実際に社会資源を開発するという事は、どのようなことなのでしょう。どのような社会問題に対して、どのような思いが堀内氏を突き動かしたのでしょうか。なぜNPO法人を立ち上げたのか、どのようにNPO法人を立ち上げたのか、その思いを形にする方法とは。また、立ち上げただけでなく、地域住民に地域の中に“在る”と感じてもらえる場所にするためには地域とどのようなかかわりを持ってよいのか。試行錯誤を繰り返しながら活動する専門職の熱く優しく冷静なお話を伺います。

事業所は大学のすぐ近く、いつでも見学に行けます。

お問い合わせ

TEL 055-224-5260 (平日:10:00~17:00)

担当 地域研究交流センター(学務課:菊嶋 人間福祉学部:高木)

MAIL [ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)

# 地域社会の発展は コミュニケーションの 輪から生まれます。

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援を行って参りました。今年度もその成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。どうぞお気軽にご参加ください。

- 開催日時  
平成28年3月22日(火) 13:00~17:00
- 開催場所  
山梨県立大学  
飯田キャンパス A館6階 サテライト教室 (甲府市飯田5-11-1)

## プログラム

時間	研究テーマ	研究者代表
13:10~13:40	双方向型の高大連携による 地域資源を活かした授業モデルの構築	国際コミュニケーション学科 教授 二戸 麻砂彦
13:40~14:10	俳句(haiku)で山梨と世界を結ぶ ~国際文芸プロジェクト~	国際コミュニケーション学科 教授 二戸 麻砂彦
14:10~14:40	山梨県の小学校における「外国語活動」の 効果的運営に関する実践的研究II	国際コミュニケーション学科 准教授 高野 美千代
14:40~15:00	休憩	
15:00~15:30	中学生とその親を対象とした 「いのちの学習会」の効果	看護学科教授 名取 初美
15:30~16:00	〈学びの支援〉に焦点をあてた 日本語支援活動 —山梨県内の活動の新たな発展に向けて—	国際コミュニケーション学科 准教授 萩原 孝恵
16:00~16:30	山梨県の地域語の商業的、 社会的有効活用に関する調査研究	国際コミュニケーション学科 教授 二戸 麻砂彦
16:30~17:00	A県内の病院における大雪災害時の 取り組みと医療安全上の課題の把握	看護学科講師 小林 美雪

**参加方法** 参加費無料で出入り自由です。  
事前の申し込みも不要ですので、お気軽にご参加ください。

問い合わせ先 山梨県立大学 地域研究交流センター TEL055-224-5260

# 2015 山梨県立大学 地域研究交流センター 研究報告会



山梨県立大学  
Yamanashi Prefectural University



---

---

2015 年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

---

発行者：地域研究交流センター長 二戸 麻砂彦

編集：地域研究交流センター 情報発信部門

部門長 藤谷 秀 (福祉コミュニティ学科)

ケヴィン・ブラウン (総合政策学科)

古屋 祥子 (人間形成学科)

小尾 栄子 (看護学科)

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5 丁目 11-1

TEL：055-224-5260 FAX：055-224-5386

E-mail: [ucrc@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc@yamanashi-ken.ac.jp)

URL: <http://www.yamanashi-ken.ac.jp/ucrc/>

発行日：2016 年 5 月 31 日

---

---

